

令和元年8月22日
於
府中市立教育センター

令和元年第8回

府中市教育委員会定例会議事録

府中市教育委員会

令和元年第8回府中市教育委員会定例会議事録

1 開 会 令和元年8月22日(木)

午後2時00分

閉 会 令和元年8月22日(木)

午後4時50分

2 議事録署名員

教育長 浅 沼 昭 夫

委 員 平 原 保

3 出席者

教育長 浅 沼 昭 夫 委 員 松 田 努

委 員 日 野 佳 昭 委 員 平 原 保

委 員 新 島 香

4 欠席者

なし

5 出席説明員

教育部長 赤 岩 直 文化スポーツ部長 五味田 公 子

教育部副参事兼指導室長 文化生涯学習課長 古 田 実

並 木 茂 男 文化生涯学習課長補佐 楠 本 順 子

教育総務課長 佐々木 和 哉 ふるさと文化財課長 江 口 桂

教育総務課長補佐 遠 藤 公巳明 ふるさと文化財課長補佐 大 川 享

学校施設課長 山 田 英 紀 スポーツ振興課長 市ノ川 恵 一

学校施設課長補佐 町 井 香 スポーツ振興課長補佐 青 木 達 也

学務保健課長 佐 伯 富 丈 美術館副館長 相 馬 修 央

指導室長補佐 鈴 木 正 憲 美術館副館長補佐 志 賀 秀 孝

統括指導主事 田 村 貴代美

統括指導主事 吉 田 周 平

指導主事 蓮 沼 喜 春

指導主事 國 廣 淨 和

指導主事 進 藤 智 洋

指導主事 柴 崎 大 輔

6 教育委員会事務局出席者

教育総務課係長 矢 島 彩 子

教育総務課主任 元 村 考 呂

議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 議 案

第28号議案

令和元年度一般会計補正予算（第1号）に対する意見の聴取について

第29号議案

令和2年度使用教科用図書採択について

第4 報告・連絡

(1) 第26回府中市生涯学習フェスティバルの実施について

(2) おかえり「美しき明治」展の開催について

第5 その他

第6 教育長報告

第7 教育委員報告

午後2時00分開会

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまより、令和元年第8回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

◇

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の議事録署名員は、私のほか平原委員にお願いいたします。

◇

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第2、会期の決定でございますが、会期は本日1日といたします。

◇

◎傍聴許可

○教育長（浅沼昭夫君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 本日は議案が2件ございます。このうち、第29号議案については、説明及び審議が長時間にわたることが予想されるため、議事進行の都合上、議事日程の最後に審議したいと思いますけれどもいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第7、教育委員報告の後、定例会を中断し、休憩の後に、定例会を再開して、第29号議案の審議をいたします。

本日の定例会は、多くの方々に傍聴していただいておりますので、改めまして傍聴の皆様方に申し上げます。

府中市教育委員会傍聴人規則により審議内容への発言や、議事進行の妨げとなる行為及び会話などは禁止されています。また、議場内における録音及び写真撮影等のご遠慮願います。

傍聴中は静粛にさせていただき、係員の指示に従い、会議がスムーズに進行できますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、本日の第28号議案については、手続未了のため、資料を一部省略して配布しております。

◇

◎第28号議案 令和元年度一般会計補正予算（第1号）に対する意見の聴取について

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第3、第28号議案の審議に入ります。議案の朗読をお願いします。

（事務局朗読）

○教育長（浅沼昭夫君） 説明をお願いします。

○教育総務課長補佐（遠藤公巳明君） それでは、第28号議案令和元年度一般会計補正予算（第1号）に対する意見の聴取についてご説明いたします。この議案は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定のに基づき、当該補正予算案を本年第3回市議会定例会に提案するに当たり、市長から教育委員会へ意見聴取の依頼がございましたので、お諮りするものでございます。ご審議いただいた内容を踏まえ、市長からの依頼に対する回答を8月23日までに行うこととなっておりますので、よろしくをお願いいたします。

なお、これからご説明する予算額につきましては、教育部及び文化スポーツ部各課の要求見込額をまとめたもので、確定額ではございません。後に財政当局による調整等により金額が変更となる可能性もございますので、あらかじめご承知おきください。

初めに、歳入予算でございますが、今回補正はございませんでした。次に、歳出予算でございますが、A3判の資料、令和元年度教育関係歳出予算案（9月補正）をご覧ください。小学校費、中学校費、社会教育費及び社会体育費に対して補正を行うものとなっております。

初めに、学校教育関係の予算事業についてでございますが、国の要保護補助単価の改定について、小中ともに就学援助費のうち、新入学生の入学準備金の単価引き上げを行ってまいります。

続きまして、文化・スポーツ関係の予算事業についてでございますが、ふるさと府中歴史館の老朽化に伴う受変電設備修繕及びひょう被害に伴う資料庫屋根の改修工事、生涯学習センターの雨樋等修繕及び消防設備改修工事、卓球オーストリア代表チームのオリンピック等事前キャンプに要する備品購入等、総合体育館第一体育室耐震改修工事の追加工事等を行ってまいります。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。日野委員、どうぞ。

○委員（日野佳昭君） 入学準備金援助費についてですけれども、昨今は子どもの貧困が問題になっておりまして、出生から成人まできめ細かい支援が必要とされています。援助費だけではなく、きめ細かい援助をこれからやっていかなければいけないと思いますので、支援をよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにいかがでしょうか。新島委員。

○委員（新島 香君） オーストリア代表チームの卓球に関して、卓球台及びネットの購入をされるということですが、新たに台数を追加するものなのか、既にある卓球台を入替えるための購入なのかを教えていただきたいのと、あとはもし使わなくなった卓球台が出た場合、例えば小・中学校のほうに少し回していただくなどのことも検討されているかどうかを教えていただきたいです。

○教育長（浅沼昭夫君） 2点お願いします。

○スポーツ振興課長補佐（青木達也君） ご質問にお答えをさせていただきたいと思います。まず、今回卓球台の購入につきましては新規の購入ということで、追加で購入をさせていただく予定としてございます。それから終了後の活用ということで、その体育館自体に在庫として置いておくスペースの関係もありますので、そのものではないとは思いますが、追加で購入した分につきましては、スポーツ振興課で所管しております地域体育館での活用、また、学校開放もやっておりますので、小・中学校での活用といったものを今後検討していければと考えております。以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それではお諮りします。第28号議案「令和元年度一般会計補正予算（第1号）に対する

意見の聴取について」、決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



◎第26回府中市生涯学習フェスティバルの実施について

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、日程第4、報告・連絡ですが、報告連絡(1)を文化生涯学習課、お願いします。

○文化生涯学習課長補佐(楠本順子君) それでは、文化生涯学習課より「第26回府中市生涯学習フェスティバルの実施について」、お手元の資料1に基づきご報告いたします。

市民の生涯学習への理解を深めるため、9月7日(土)及び8日(日)の2日間、生涯学習センターにおきまして生涯学習フェスティバルを実施いたします。7日の開会式には府中第八中学校吹奏楽部による演奏や8日には元多摩動物公園園長の田畑直樹さんによる「動物園の楽しみ方」に関する特別講演会を実施するほか、終日とも市民グループによる音楽や踊りの発表、市民の作品展示など内容の詳細につきましては、資料に記載のとおりでございます。委員の皆様にもぜひご高覧いただきたくご案内申し上げます。以上でございます。

○教育長(浅沼昭夫君) ただいまの件につきまして、何かご質問はございますか。よろしいですか。それでは、報告・連絡(1)について了承といたします。



◎おかえり「美しき明治」展の開催について

○教育長(浅沼昭夫君) 続きまして、報告・連絡(2)番を美術館、お願いします。

○美術館副館長補佐(志賀秀孝君) お手元の資料2「おかえり『美しき明治』展」チラシをご覧ください。この展覧会の会期は9月14日(土)から12月1日(日)までで、府中市制施行65周年記念事業として、また、本市がラグビーワールドカップ2019の公認キャンプ地となったことにちなみ、イングランドチームの本国イギリスの文化庁に当たるブリティッシュ・カウンシルの後援を受け、「おかえり美しき明治『明治の微笑み』をあなたに」展を開催いたします。観覧料は記載のとおりで、市内小・中学生は学びのパスポートで無料となります。

チラシをお開きください。明治初期日本にやって来た多くの英国人画家たちは、日本の、特に京都、東海道、富士、箱根、そして日光といった名所を西洋式画法によりながら感動を持って、とても明るく描き出しました。花を求め、明治を旅したアルフレッド・パーソンズは帰国後出版した紀行文の中で「日本人の親が子に対する愛情の深さは感動する。子どもを叱ることも、また、泣いた子どもの姿もほとんど見かけなかった」と、記しています。明治を訪れた英国人画家は、日本の風景や人々の心優しい暮らしぶりに感動し、多くの作品が描かれました。日本の美しい風景画は海外にも持ち帰られ、その後、そのまま大切に保管されてきましたが、昨今、個人コレクターの努力で徐々に日本に里帰りしてきています。海を渡った作品が里帰りして来たことと、明治の美しさが現代に再現することを展覧会のタイトルの「おかえり」に込めています。どなたでも

今から150年前の日本の美を感じていただける展覧会となるよう、前後期合わせ作品数330点で皆様をお待ちしております。会期中9月14日及び11月9日を除く、毎週土曜日の午後2時から30分スライドレクチャーを、また、高名な高階秀爾大原美術館館長をお迎えする展覧会関連講演会は9月15日(日)、続いて、チラシ表記のとおり3回の講演会を10月19、26、11月3日ともに午後2時から、また学芸員によるクロストークを11月10日午後3時から開催いたします。常設展示室では企画展にあわせ、江戸時代の美術、洋画家たちの写生旅行を開催いたします。会期中、1校4クラスが鑑賞教室で来館いたします。1階の公開制作室では山口啓介のメタモルフォセスを開催いたします。描くことの秘密に迫ります。ぜひご観覧いただきたくご案内申し上げます。以上でございます。

○教育長(浅沼昭夫君) ただいまの件につきまして何かご質問、ご意見ございますか。よろしいですか。それでは、報告・連絡(2)について了承いたします。



◎その他

○教育長(浅沼昭夫君) 日程第5「その他」でございますけれども、何かございますでしょうか。よろしいですか。



◎教育長報告

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、日程第6「教育長報告」に移ります。活動状況については別紙の「令和元年第8回教育委員会定例会教育委員会活動報告書」のとおりでございます。

なお、この報告書は令和元年7月13日から令和元年8月16日までの活動内容となっております。

私からは特段の報告はございません。以上です。



◎教育委員報告

○教育長(浅沼昭夫君) 日程第7「教育委員報告」に移ります。活動状況については、別紙のとおりでございます。

まず、松田委員、お願いいたします。

○委員(松田 努君) 私からは、まず、7月22日、23日と府中第八小学校の日光林間学校を視察させていただきました。多少の雨には降られたものの、子どもたちが楽しく活動する様子を一緒に体感することができました。私自身も小学校のとき以来、本当に40年近く前の日光でしたけれども、いろいろ変わっているものや覚えていないものもありますけれども、そのときのことが思い出として残っているものもあります。楽しい思い出、ちょっと苦い思い出など、子どもたちにはこの林間学校を非常に貴重な経験になったのではないかと思います。

もう一つは、7月31日に総合教育会議では、ワールドカップの開幕直前に、ラグビーワールドカップ2019及び東京オリンピック・パラリンピックに向けた府中市の取組について協議できたことは、今後のイベントなどの活動、さらに大会後のレガシーの創出に向けて

非常に良い機会になったのではないかと改めて感じました。

私からは以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。次に日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 3点報告します。7月24日、教育委員の資格で府中市国民健康保険運営協議会に出席しました。教育委員会の仕事としてはあまりなじまないの今回のみ簡単に報告します。

内容は国民健康保険特別会計決算について、毎年収納率が上昇していますが、やはり滞納があり、問題になっていること。保健事業としては特定健診の受診率は昨年度52.9%しかありませんでしたが、東京都の中では上位であることなどなどについて質疑が行われました。

続きまして7月31日、総合教育会議に出てきました。府中市子どもの未来応援基本方針が協議題としてありました。子どもの貧困が社会的問題になっています。必要なものや経験、家庭環境、養育面の不足により、子どもの自信や未来に向かっていく力が低下することが懸念されています。今後、教育委員として総合的な施策に早急に取り組んでいかなければならないと感じました。

最後に8月3日は、ルミエール府中で行われました「平和のつどい2019」に出席しました。古賀稔彦氏の講演は、嘉納治五郎の教えである「精力善用 自他共栄」という心身の持つ全ての力を最大限に生かして、良い方向に用い、相手に対して敬い感謝することで、信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人とともに栄える世の中にしようという言葉がわかりやすく、大変おもしろく話していただきました。映画上映は「夕風の街 桜の国」でした。広島原爆の残酷で痛ましい現実、終戦後も長く続く原爆の被害と心の傷、被爆者への偏見、家族の愛など、私も恥ずかしながら涙がとまりませんでした。映画について次回に要望することは、参加者が年配の方のみで定員600人の十分の程度の人数であったこと、ぜひ多くの中学生に参加してもらいたい内容であったことです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続きまして平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私からは2点報告いたします。まず、1点目は日光林間学校の視察に行っていました。今年は梅雨が延びていまして、梅雨明けが待ち遠しいころ天気が気がかりでしたが、私たちが日光に到着したときには曇り空になっていました。そして、中禅寺湖畔の菖蒲ヶ浜で八小の子どもたちに合流したとき、子どもたちは明るく元気な表情で活動していました。また、中禅寺湖に立ち込めていた霧も晴れて、遊覧船の旅を楽しむ子どもたちの姿を参観することができました。その後、戦場ヶ原での集合写真撮影、宿舎内での様子などを参観しました。子どもたちは集団生活のルールやマナーを守り、日光の雄大な自然に親しみながら、楽しく充実した活動をしていました。また、引率の副校長先生を始め、先生方の指導、学務保健課の支援、配慮などにより充実した日光林間学校を実施しているところを参観することができました。報告いたします。

2点目は英語でクッキング、Cooking in Englishの参観です。7月25日木曜日に参観しました。Cooking in Englishは地域の資源を活用して、他教科と関連を図り、生徒の身近な暮らしにかかわる場面を通して英語によるコミュニ

ケーションを楽しむことができるすぐれた事業であると実感いたしました。今後への課題としては本活動のよさや、効果を市内中学生全員の英語学習の充実、そして市内の小学校の英語学習の充実にもどのように還元できるかということが挙げられると感じています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。新島委員、お願いいたします。

○委員（新島 香君） 私からも2点です。まず、7月22日、23日の日光林間学校について、各見学地で八小のお子さん方の行動を見ていると、子どもたちは大変落ちついていて、公共の場でもご迷惑をおかけすることなく行動できていたのがとても感心いたしました。宿泊施設のほうではご担当の方から館内を丁寧にご説明いただきましたが、暑い時期でもあるため、麦茶が飲めるように館内の複数か所に麦茶が設置してあったり、救護室として使う部屋はさまざまな事態を想定し、対応できるよう配慮されておりました。子どもたちが集団で体験や学びを得るとともに、安心安全に体を休め、食事をとることができる環境が整っていてとても安心しました。あと、子どもたちの様子から随所で5年生のセカンドスクールでの体験が生きているのかなと感じるところがありました。5年生でのセカンドスクール、そして6年生での日光林間学校で子どもたちが得るものは、自然や文化遺産から学ぶものは当然ながら、家庭から離れた集団生活の中で個々を尊重することや、労り、思いやり、協力することなど人として最も大切な学びではないかと思いました。また、その結果がセカンドスクールを体験した学年以降、府中の子どもたちが大変落ちついた状態を保持できている1つの要因になっているのではないかなと強く感じました。これからの時代、多様な生き方、考え方を相互に認め、尊重し合える人へと育てるための重要な学習事業の1つだと強く感じた視察でした。

次に8月3日「平和のつどい」です。オリンピック柔道金メダリストの古賀稔彦氏の講演を拝聴いたしました。目標を達成するのに必要なことは、こうできたらいいとか、あんなれたらいいなくらいの意思ではなく、絶対に達成するのだという強い意思を持つこととおっしゃっていたのがとても印象的で、私も家に帰ってすぐ子どもにその話をしました。当日、暑さが厳しかったせいか、ご来場者が少なかったのが少し残念で、古賀先生のお話がとてもわかりやすかったので、先ほど日野委員もおっしゃってしましても、子どもたちにももっと聞ける機会があるといいなと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、ここで定例会を中断いたします。2時半から会議を再開したいと思います。

午後2時25分中断

_____ ◇ _____

午後2時30分再開

_____ ◇ _____

◎第29号議案 令和2年度使用教科用図書の採択について

○教育長（浅沼昭夫君） 定例会を再開します。第29号議案の審議に入ります。第29号議案については、教育委員会臨時会を開催し、協議を行った結果を踏まえ、選定した採択候補図書を本定例会において議案として提出するものです。採択候補の教科書選定に係る教育委員会臨時会の会議録については、採択後、ホームページ等で公開してまいります。それで

は、議案の朗読をお願いします。

(事務局朗読)

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、1の小学校用教科用図書について、国語から説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） それでは、第29号議案「令和2年度使用教科用図書の採択について」ご説明いたします。議案書の1ページをご覧ください。初めに、1の小学校用教科用図書についてご説明いたします。令和2年度使用教科用図書採択要綱第4条第1号に則り、全11教科において各教科に精通した市内小学校の管理職及び教員の8名で構成する調査研究委員会が作成した調査研究資料等を参考に、校長職及び保護者代表で構成する選定資料作成委員会において、各社の図書を検討いたしました。書写及び地図については、書写は国語科、地図は社会科の委員会にて調査しております。調査研究委員及び選定資料作成委員を委嘱した全ての者について、今回の小学校用教科書の作成に一切関与していないことを、書面をもって確認済みであることをご報告いたします。

今回の選定資料作成委員会は、小・中学校校長13名、保護者代表2名の15名で構成しております。市立小学校の調査は6月21日までに全22校に見本本を回覧して実施しており、全ての学校から調査書の提出がありましたことをご報告いたします。市民からのご意見については、市広報紙及びホームページにて見本本展示会の開催を周知の上、6月6日（木）から19日（水）までの土日を含む14日間、教育センターにおきまして全ての教科書を展示いたしました。期間中の来場者は延べ人数で58名、アンケート回収は33件でございました。学校の調査回答及び見本本展示会における市民のアンケートをまとめた資料については、選定資料作成委員会に提出しております。今回の採択に当たっては、採択の対象は全60種ございました。そのうち、理科と生活科の対象となる信州教育出版社については、信州の地域を意識した内容の作りとなっており、府中市の採択実績のない出版社であることから調査の対象としていないことをご報告いたします。

では、ここからは、先日開催されました教育委員会臨時会でご報告しました選定資料作成委員会の検討内容の対応とあわせまして、臨時会における協議の概要について教科・科目ごとにご報告いたします。

臨時会に当たりまして、教育委員の皆様には、ここまでご報告いたしました全ての関係資料を提出いたしましたので、改めてこの場でご報告いたします。臨時会では冒頭で、選定資料作成委員会において、全体を通して各教科等共通事項3点についてご報告いたしました。1点目は、選定資料作成委員会から提出された資料内において、「特記事項なし」の記載は、調査基準に対して適切であるため特段の記載事項がないということであり、調査基準に対し調査の漏れがないことが分かるよう全て記載したものであること、2点目は、今回の教科書の特徴であるデジタルコンテンツの調査の扱いについて、デジタルコンテンツは教科書に掲載された資料の1つとして扱い、各教科で特筆することがあれば調査資料に記載していること、3点目は、各教科各社共通して色や書体のユニバーサルデザインの配慮があり、各調査資料でも随所に記載があること、以上3点です。

では、議案書2ページ、別紙1、小学校教科用図書一覧の教科順に従ってご報告いたします。国語科については、各社、学習指導要領の内容が網羅され全体的に内容にボリュームが

あるため、しっかり年間指導計画を立てる必要性を感じることに、馴染みのある教材は各社引き続き掲載されているものもあるが、同じ教材でも扱いに変更が見られたこと、全体的に自らの学習を促すスタイルになってきていること、学びの系統性や単元の見通しの配慮が見られること、今日的な課題について取り上げられていること、などについて選定資料作成委員会に挙げられていました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、特に光村図書出版に関するご意見が多く聞かれました。主なものは、取り上げられている教材のバランスが良い、言語活動を促すようになっていく、系統的になっており児童が楽しみながら着実に力が身に付くような構成になっている、進め方や学び方が丁寧である、柔らかい色遣いなど読みやすい、QRコードのデジタルコンテンツは文学作品が充実しており、朗読など家庭学習にも活用でき、発展的な学習に効果的だと思われる、などのご意見がありました。

そのほかの教科書についてご意見は次のようなものでした。東京書籍については、まとめる学習ができるようになっていく、分かりやすい、府中の子供たちにとって身近な教材が取り上げられている。というご意見が、教育出版については、分かりやすい、というご意見がありました。

また、選定の視点として、読書を大切に考えたこと、新しい発見があるものであることや分かりやすく親しみやすいものであることなどをポイントとしたことのご意見がありました。

ご報告は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問はございますか。

それでは、初めに私から概観的に感想を申し上げたいと思います。いずれの発行社の教科書も丁寧に見直した上で、新学習指導要領のもとで大変充実した内容、体裁、独自の工夫を読み取ることができました。こうした教科書が我が国の学校教育の質の維持・向上にも大きく寄与していることは間違いないことでありまして、発行社の方々に深く感謝と敬意を申し上げたいと思います。

多くの教科書を前にして、選択できるということは大変意義のあることで、今後もこうした状況を継続してほしいと願っています。

次に、学校教育、そして教科書に関心を持たれ、先ほども報告がございましたけれども、6月6日から19日までの間、教科用図書見本展示会で実際に教科書を手に取り、ご感想を寄せていただきました多くの方々にもお礼を申し上げたいと思います。さまざまなご意見をいただき、参考にさせていただきました。ありがとうございました。

それでは、小学校の教科用図書について種目ごとに確認をしていきます。教育委員会臨時会での協議、その後の調査、研究などを踏まえて、教育委員会臨時会の内容と重複しても構いませんので、ご意見をいただきたいと思います。まず、国語につきまして、松田委員、お願いいたします。

○委員（松田 努君） 私は先日の臨時会で2社の教科書を推させていただきました。まず、1つ目は光村図書です。その主な理由としましては、単元の初めに何を学習するのが書かれていて、巻末の付録、「学習を広げよう」にさまざまな内容があり、また、まとめもできるようになっていて、非常に良いと感じました。

もう1つは東京書籍です。こちらは主な理由としましては、学習前のページでつかむ、最

後に振り返りがあり、わかりやすく学習できるのではないかと感じたからです。臨時会から私の意見は変わっていません。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 私は国語の学力を上げるために、最も効果的なことはいろいろな本をたくさん読むことと思っています。いろいろな表現、言葉遣い、漢字などを学ぶために、低学年からの長い積み重ねが大きな差となります。読書に対する興味を持たせるための内容になっているか、新しい発見があり、さらに深めようとする指導がなされているかを見ました。また、話すこと、書くこともやはりより多く経験することが大事となります。そのためにいかにわかりやすく、親しみやすく、興味深く教科書が作られているかを基本に選択させていただきます。

東京書籍はグループで関連する本を紹介し合うなど、図書館を活用するようにもなっている。単元の始めにつかむとして大切なことが書かれており、さらに取り組む、ふりかえるとわかりやすい。光村図書は学習の進め方、学び方を丁寧に指導されており、単元ごとに自分の感想を伝え合うところまで、順序立てて構成されているように思います。文学など読んでほしい内容も多いです。QRコードなどで家庭での自主学習もできるようになっています。教育出版は「1、確かめよう、2、考えよう、3、深めよう、広げよう」の学習の手引きがとてわかりやすく理解できました。また紹介図書も多数掲載されていました。この中で光村図書を推薦したいです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続きまして平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は光村図書を推薦する4つの観点からお話をさせていただきます。1、読むことの、文章別索引数で説明的な文章と文学的な文章の作品数の割合のバランスがよく、詩歌、詩や俳句、短歌などの数が多く扱われていると感じました。各作品の内容も充実しており、これまで長年にわたり、大切にされてきた教材とともに、今日的な課題を取り上げている教材が適切に盛り込まれていると思います。こうした読み物教材を通して学ぶことにより、児童が筋道を立てて考える力や豊かに感じたり、想像したりする力を高めることが期待できます。2、話すこと、聞くことの言語活動について、児童の身近な課題について、聞く、話し合う、スピーチと段階的に学習できるように構成されていました。3、書く力を身につけて高めていくために、各学年において説明的な文章と文学的な文章など、書く力を身につけさせる活動が系統的に位置づけられていました。4、1年生の入門期の言語への指導が丁寧であると感じました。児童に身近な題材や想像力を膨らませるイラストなどを用いて、児童が楽しんで言葉の学習に入っていけるよう配慮され、児童が主体的に学習を進められるよう話題や題材が工夫されていると感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も臨時会同様です。まず、光村図書です。理由としては自主学習がしやすい工夫がなされているというところ、また、他教科との関連を意識した学習材が取り入れられているというところが良かったと思っています。あとは、やわらかい色使いでとても見やすかったというところも良かったと思います。

次に、東京書籍です。つかむ・取り組む・ふりかえるは明確でわかりやすいというところはすごく良かったです。あとは、府中は多摩川が流れていますので、多摩川を題材にしたノ

ンフィクションが紹介されているところでは、自分たちのふるさとのことも学習できる内容としては東京書籍もいいなと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後に私の意見を申しあげます。国語に限らず教科書全体に関して、私の着眼点も含めまして幾つか気付いたことを先にお話をします。

1つは、私の予想を超えまして教科書にQRコードが多用されたということであります。この内容につきましても、教科書会社によって濃淡が見られました。さらに、その形式として教科書の1か所にのみあるものと、各ページにあって、関連内容をホームページで閲覧できるような仕組みになっているものがありました。どちらが効果的であるかということは実際に使用に供しまして判断すべきですが、今のところ私は各ページにQRコードがあったほうが先生方にとっても利便性があるのではないかと感じました。さらには、保護者とともに児童が予習、復習をする上で効果的ではないかと感じました。このことによりまして、保護者と児童が学習について関心を高めてもらえるのではないかと期待するところであります。

ICTを使った教育が学校でだけでなく、家庭学習にも活用される時代となったという気がします。いよいよこうした教科書に加えまして、デジタル教科書が採用されることになると、子どもたちや学校はもちろんですが、保護者も単に何年生でスマホを持たせたらいいかという、大変単純な考え方、ICT論議から脱却しまして、将来ICTを活用し、AIと向き合いながら豊かに生き抜く資質能力を備えた子どもたちをどのように育成するかという視点に立つことが求められるそうです。ともに考えていくべき課題だと感じました。

続きまして、今後はデジタル教科書をいつ導入し、その利点をどのように活用し、教育効果を高めていくかということになります。市ではこの9月から全小学校にタブレットと電子黒板機能付きタッチディスプレイが配備されます。こうしたデジタル機器を駆使することで、児童の情報リテラシーを向上させることはもちろんでありますけれども、先生方の教材準備や指導案作成にも役立ってほしいなと期待しています。

それから別のことなのですが、従来にも増して学習効果を高める写真を多用していることや、児童に興味関心を高める工夫として、漫画、イラスト、そしてページの余白にパラパラ動画というのでしょうか、を工夫した教科書も利用していました。

前置きはこの程度としまして、議題となっております国語科についての意見を申しあげます。

国語科については光村図書を推したいと思いました。幾つかその着眼点を申しあげますが、それぞれの学年で習う漢字がこの本で習う漢字として学年ごとに、かつ、これまでに習った漢字が巻末にまとめて掲載されていて、日常的な指導や復習に役立つ辞典としても使えるということで、6年間を通して系統的に収録されている特徴があり、利用しやすいのかなと感じました。

それから、季節の言葉が取り上げられていまして、伝統的な言語、文化を発達段階に応じて感じさせ、関心や意欲を持たせる工夫がなされている。それから、学習を広げようということで、コラム、大切のまとめ、点字と手話、指文字など多様な言語活動の事例を示していました。それから筆順の表示もわかりやすかったと思います。そして、話すこと、聞くこと、そして書くことといった言語活動がバランスよく取り上げられている。また、読むことの商品として、文学的な文章と説明的な文章が充実しており、その具体的な内容も発達段階に応じてよく精選されている。統計資料の読み方、グラフや資料を使ったものの進め方が取り上

げられていたことも良かったと思っています。

そして、先ほど最後に申しあげましたように、QRコードによって作者のプロフィールやほかの作品を紹介したり、あるいは平家物語等の朗読などを直接聞くことができる。興味・関心を持たせて自学自習に役立てたり、そういった観点から光村図書を推したいと思います。

それでは、ただいまの意見を踏まえまして、ほかにご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、国語につきましては、原案どおり光村図書出版を採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 続きまして、書写について説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 書写については、手本が原寸大で分かりやすい、イラストやキャラクターがかわいらしく子供に分かりやすいなど、各社とも子供が楽しめる工夫や発達段階に配慮があること、QRコードのデジタルコンテンツでは、筆の使い方が動画で掲載されていたり、筆の作られ方等他教科とも関連付けられたりするような資料の掲載があることが挙げられました。また、水書きシートの有無が話題に挙げられました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、特に光村図書出版に関するご意見が多く聞かれました。6年生ブックが学習の振り返りに良い、学習の過程や用具の扱い、筆使いなどが分かりやすい、他教科との関連が盛り込まれ学習が広がる、毛筆の動きの指導が様々で分かりやすく経験の浅い教員も教えやすい、デジタルコンテンツでは、教員から個別指導を受けているような動画があり子供の興味をひく、などのご意見がありました。

そのほかの教科書について、ご意見は次のようなものでした。東京書籍については、書写のかぎは分かりやすい、学校図書については、原寸大の見本はそのまま使用できるところが良い、鉛筆の作り方や和紙など資料館に取り上げられているものは興味が広がり面白い、児童が課題をもって取り組める、教育出版については、文章が分かりやすい、日本文教出版と東京書籍に共通して、たくさん練習ができそうとのご意見がありました。

そのほか、書写はいかに多く書くか、早期段階から基本的なことを身に付けられるかを視点として選定したとのご意見がありました。以上でございます。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。それでは、松田委員、お願いいたします。

○委員(松田 努君) 書写につきましては、まず、光村図書を推させていただきました。主な理由としましては、6年生に書写ブックがついていて、各学年の学習を振り返るのにとっても便利だと思いました。もう1つは東京書籍です。こちらの主な理由としましては、3年生以上に書写のかぎという、意識することがわかるようになっているのが非常に良いなと思いました。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、続きまして日野委員、お願いします。

○委員(日野佳昭君) 書写は、他の教科にも言えることですが、いかに多くの字を書くかを基本と考えます。楽しく、多く書くために先生方の工夫が必要になります。毛筆の扱い始めは難しいですが、最初から基本を大切にしてほしいと思います。この観点から選びました。東京書籍と日本文教出版を第一に選びました。毛筆の穂先の向きがわかりやすい、水書

きシートでたくさん練習できる。そのほか、教育出版も運筆のポイントがとてもわかりやすい。光村図書も筆使いがわかりやすく記載されていると思います。ちょっと多いですけども、この4社を推薦させていただきます。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして平原委員、お願いいたします。

○委員（平原 保君） 私は2社について推薦理由を述べさせていただきます。まず、第1に学校図書です。1、学習の進め方が明示されていて、児童が課題意識を持って学習することができる。2、鉛筆やボールペンなどで教科書に書き込めるようになっている。3、これが大きな理由です。毛筆の手本が原寸大で示されており、児童にとっては良い手本として活用できる。授業の教科書を手本とできるので、教師にとっては改めて手本を用意する必要がなく効率的に指導ができる。4、書写の学習に興味、関心が持てるように書写に関するコラムが掲載されている。2年、鉛筆のつくり方、3年、墨のつくり方、4年、和紙のつくり方など。5、全学年の巻末に書写の資料館というページがあり、文字にかかわる資料が豊富に掲載されている。その内容は他教科との関連も考えており、教科を横断的に書写の学習を進めることができる。

次に光村図書について、1、学習過程、目当て振り返りが児童にもわかりやすいように明示されている。2、用具の準備や片づけなどが写真つきで説明されているのでわかりやすい。3、毛筆の手本が2色で、筆使いがわかりやすい。4、毛筆の筆使い、始筆、送筆、終筆などの穂先の向きや動きがわかりやすいように表示されている。5、低学年の児童が水筆を使って書けるように水書きシートがついている。児童がとめ・はね・はらいを意識して文字を書けるようになることが期待されるという以上の5点です。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も2社です。まず、光村図書です。鉛筆や筆の運びがキャラクターを用いて、子どもたちにも理解しやすいなと感じました。それと、他教科と関連したところでは連絡帳や招待状の書き方など、これからの生活に知識としても必要なことも一緒に学ぶことができる教科書でいいなと感じました。

次に、学校図書です。こちらは先ほどからもお話が出ていますが、原寸大で手本がついているところが一番いいと感じました。あとは書写の資料館もページについていいなと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。最後に私の意見を申し上げます。私は光村図書を推したいと思いました。幾つかその理由なのですけれども、毛筆での穂先の向きや動きの説明が写真やイラストとも必要に応じて使われており、極めてわかりやすく表示されている。これが指導経験の少ない先生にとっても使いやすい教科書だなと感じました。それから現在は電子メールが中心になっている日常生活なのですけれども、資料として手紙の書き方やハガキの書き方など、非日常生活においても今、なお大切なものを取り上げている。それから資料として漢字のいろいろな書き方を取り上げ、はらい、とめ、筆順と形など発展的に扱っている。横書きやローマ字についても取り上げている。筆順の表示がわかりやすかったという感じでした。そして、圧巻なのはQRコードによって、ネット上であたかも先生に直接毛筆の個別指導を受けているような状況を体験できる。まさにICTの利点を生かしたところで充実しているかなと感じました。ということで、私は光村図書を推しました。

それでは、ただいまのご意見等を踏まえまして、ほかにご意見やご質問等はございますか。よろしいですか。

それでは、全員が1社ということではなく、複数候補者が挙げられましたけれども、原案どおり光村図書出版を採択するということについては、ご異議ございませんか。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、そのようについてまいりたいと思います。書写は光村図書出版を採択したいと思います。

続きまして、社会について説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 社会科については教科の特性上、調査においては深い学び、学び方の習得、言葉の難しさの3つの観点を意識し、時代によって学び方があり、時間軸の空間認識をしやすいか、算数と関連し、各種グラフの見方を学習した上で読み取りができるか、キーワードや子どもに馴染みのない難しい言葉の扱いについてはどうかという視点で調査が行われ、各社とも発達段階や系統性を踏まえた内容の適切さ、統計表や地図資料などのわかりやすさ、難読語句をキーワードとして扱い、解説をつけるなど、意識して工夫が見られたとの報告が挙げられました。

これを踏まえ、臨時会の協議では特に日本文教出版に関するご意見が多く聞かれました。地元や多摩地域に関連することが掲載されている、見出しの構成が見やすくわかりやすい、内容を理解しやすい、問題解決の学習について評価できるなどのご意見がありました。

そのほかの教科書について、ご意見は次のようなものでした。東京書籍については6年間の学習内容がわかりやすい。教育出版については情報が多く興味深い。調べる手引きがあり調べる力が着実に身につく。各単元の構成が問から展開され、子どもが主体的に学ぶことができ良い。まとめて学習を定着することができるなどのご意見がありました。

報告は以上でございます。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。松田委員、お願いいたします。

○委員(松田 努君) 私は日本文教出版を推させていただきました。主な理由としましては、私たちの学びを生かそうなどのコーナーが、より発展した内容を学ぼうと、興味を持ちそうで、非常に良いと感じました。また、くらやみ祭や多摩川清掃など、府中市が載っていることも身近に感じられて良いと思いました。他の教科書でも掩体壕などを扱われているのがありましたが、私は日本文教出版がより良いと感じました。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。日野委員、お願いします。

○委員(日野佳昭君) 社会は読み物としておもしろかった思い出があります。興味を持ったものはさらに図書館などで調べることもできます。まず、読んで楽しいものを一番に選びました。教育出版は情報量が多く、内容が大変興味深い。「つかむ・調べる・まとめる」という学習の過程がわかりやすい。日本文教出版は、1時間1見開き構成となっており、学習しやすい作りで内容も充分あると思います。本文が三分割され内容が理解しやすいです。府中、多摩地区の内容がある。以上、この2社を推薦します。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。続きまして平原委員、お願いします。

○委員(平原 保君) 私も2社を推薦します。まず、教育出版です。1、学びの手引き

が示されており、問題意識の喚起、調べる手掛かりや注意事項、まとめ方への助言など、情報を適切に調べまとめる技能を着実に身につけさせられるように工夫されている。2、巻頭に社会科の学習の進め方が示され、児童が問題解決するための学習に見通しを持って進めることができる。各単元が「つかむ・調べる・まとめる」という学習展開ができるように構成され、児童も「問い」から展開していく流れが重視されており、児童が「社会的な見方・考え方」を働かせて、問題解決に主体的に取り組むことができる。こうした学習過程を通して、基礎基本の知識や技能を身につけると共に、思考力・判断力・表現力を育むことが期待できます。3、社会の今日的な課題、人権・福祉・環境の教育などについて多角的・多面的に考えられる教材が、バランスよく配置されていると感じました。4、自然災害から人々を守る活動について、国、地域の関係機関や人々が行ってきた取組及び今後の備えについて、豊富な写真や図、わかりやすいコラムが数多く掲載され、児童の気づきと問題意識を喚起するように工夫されています。5、5年生では野辺山高原の農業「野菜作り」や「酪農」、「観光」、「開拓の歴史」など6ページにわたって取り上げられており、府中市の5年生が行っているセカンドスクールと関連づけて学ぶことができると感じました。

次に、日本文教出版について3点です。1、巻頭、この教科書の使い方に学習の進め方が示されていて、私たちの問題、児童の間から学習問題を追求できる構成になっている。こうして問題解決的な学習を通して、基礎基本の知識や技能を身につけるとともに、思考力、判断力、表現力を育むことが期待できます。2、4年生学習資料では、よみがえった多摩川には府中市民による多摩川清掃活動が取り上げられており、身近な環境への働きかけとして学ぶことができる。3、同じく4年生に各地に見られる年中行事で武蔵府中くらやみ祭が取り上げられていて、児童の身近な題材として興味が持てる教科書だと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続きまして新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私は、まず、日本文教出版です。何よりも社会という身近なことについて学ぶ上で、3年生の教科書では関西を取り上げているものが多かったのですが、4年生、5年生、6年生と身近な多摩川にかかわることですとか、高尾山、東京防災や6年生と4年生などは調布のほうのことですとか、非常に身近な地域の内容が多く、子どもたちが興味を持って教科書を読むのではないかなと感じたのが一番の理由です。ふるさと学習、また、郷土愛というところでも自分の地域に誇りを持つような1つのものになるのではないかなと感じました。

次に、東京書籍です。こちらは全学年上下巻の2冊扱いになっていて、6年生で特に歴史と政治が分かれているところがわかりやすいと感じたからです。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。最後に私の意見を申しあげたいと思います。社会科は東京書籍、教育出版、日本文教出版の3社でございますけれども、ともに各ページにQRコードがない作りになっていると読み取りました。これは社会科の教科書はいつでも写真や資料が豊富な作りになっていることから、なかなか難しいものをやるのだなと感じた次第です。もしかしたら違うかもしれません。他の教科に比べて教科書と関連付けた資料などのデジタル化がこれからという感がありますけれども、これからの充実に期待したいと思います。この中で第一の採択候補にしたいのが日本文教出版です。これは先ほども委員からご指摘がありましたけれども、決め手は4年生の各地に見られる年中行事として、1

ページにわたり武蔵府中くらやみ祭が取り上げられ、郷土の森博物館の館長の談話が掲載されているということであります。くらやみ祭というのは子どもたちにとって地域の誇りにつながるということで、これを第一に推したいと考えました。

次に、候補としては教育出版になります。教育出版の6年生の教科書に白糸台の掩体壕の写真がございませう。それから内容構成ともに十分構成されておりまして、読みやすく視覚的に受け入れやすい全体的な印象を感じました。それから文化財や年中行事、国宝、文化遺産等に関する内容が充実しており、歴史・伝統を発展させるためにも本市の児童によっている教科書だなと感じました。まとめる・深めるという観点の中で聞き分けて、学習内容の理解に定着させることができるといった特徴から、私は2つ、その中でも日本文教出版を採択したいと考えた次第であります。

それでは、ただいまの意見を踏まえまして、ご意見、ご質問はございませうか。

○委員（平原 保君） 今、教育長から、デジタルコンテンツについて話がありましたが、教育出版については学びリンクという形でQRコードからアクセスできるようになっておりますし、それから日本文教出版、デジタルマークのついた教材、それから東京書籍ではDマーク、デジタルマークですかね、そこからアクセスができました。各ページということではちょっと違ったかもしれませんが、各社とも行われていたかなと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ご指摘ありがとうございます。各ページにというお話を申しあげました。ありがとうございます。

ほかにかかでしょうか。よろしいですか。

それでは、社会科については複数候補が挙げられましたけれども、原案どおり日本文教出版を採択することにご異議ございませうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして地図について説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 地図については、教科書の内容と連動しているものと資料としての要素が強いものと、2社の特徴的な違いが見られ、地図のデジタルコンテンツはQRコードではなく、ホームページへ画面が飛ぶように設定されていることが挙げられました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、全て帝国書院に関するご意見でした。大きくて見やすい、色が鮮やかである、区部や市部が分かりやすい表記であり、府中市も分かりやすいため、自分の市に誇りがもてる、内容が分かりやすく本としても面白い、鳥瞰図が読みやすい、オリンピック・パラリンピックが取り上げられている、コーティングされて丈夫な作りである、などのご意見がありました。説明は以上です。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。それでは、最初に松田委員、お願いいたします。

○委員（松田 努君） 私は帝国書院を推したいと思っております。主な理由としましては、地図でよく使うと思われる索引は、どちらも見やすさや数にはあまり変わりはないと思っておりますけれども、今、説明がありましたように、東京オリンピック・パラリンピックの予定地や競技名があるのはこの時期だからこそ非常に良いと感じました。東京都の学校としても非常に良いと思っています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続きまして日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 帝国書院を推薦します。大きく見やすい、内容もよりわかりやすい、地図内の資料が多く、ただの地図ではなく本となっていて知識が覚えやすい、大変おもしろいものとなっています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、続きまして平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は帝国書院を推薦します。1、巻頭の地図帳の使い方「地図ってなんだろう」「地図のやくそく」「地図の使い方」は、12ページにわたり文字や記号も大きく見やすく、丁寧にわかりやすく示されている。入門期の3年生が楽しみながら地図について理解したり、活用したりできるようになっている。さらに3年生はもとより6年生まで各学年において有効活用できるページであると感じました。2、児童にとって以下のように見やすい地図表現となっていました。A4判見開きページの表記で大きく見やすい。特産物は文字と絵で表記されている。各地の名産品や観光地などのイラストが豊富で楽しく親しみやすい。東京都全体がわかりやすく表記されていて、府中市の位置もわかりやすく府中の森公園、大國魂神社等の表記もなされている。3、児童が主体的に学ぶように工夫されている。例えば地図マスターへの道の問題を参考にすれば、自分で課題を発見して解決できる。子どものキャラクターなどが地図を紹介したり非常にわかりやすくなっている。東京2020オリンピック・パラリンピックの主な会場等が記載されていて、他の教科、領域においても活用できる。4、後半のページは各単元に合わせた資料、「日本の自然」、「日本の自然災害と防災」、「日本と世界を結びつき」など、わかりやすく豊富な資料が掲載されている。5、表紙・背表紙ともコーティングされていて4年間使用に耐える丈夫な製本であるという理由です。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続きまして新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も帝国書院です。理由としてはやはりオリンピック・パラリンピックの予定地や競技名が載っていること、それと東京都のほうのページには府中市の名所も載っているということで、子どもたちが身近に楽しく見られる地図になっているかなと感じましたので、帝国書院を推薦いたします。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後に私の意見を申しあげます。地図につきましては、2社の中から帝国書院を推したいと思いました。重複を恐れないでお話を申しあげますと、地図の色合いが鮮やかでありながら、表記の文字が大変読みやすい作りになっていると感じました。それから鳥瞰図、絵地図が充実していて、東京都とその周りの地図には府中市東京競馬場、大國魂神社、府中の森公園等が掲載されていて子どもたちが身近に感じるだろうといった理由からであります。

それでは、ただいまのご意見等を踏まえまして、何かご質問等はございますか。よろしいですか。

それでは、地図につきましては全員一致しまして、原案どおり帝国書院を採択するというご意見が出されましたけれども、ご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして算数について説明をお願いします。

○**統括指導主事（田村貴代美君）** 算数科については、算数を生活の中で感じられる工夫、イラストや写真等の使い方の工夫、系統性や発達段階に応じた分かりやすい工夫などが各教科書に共通して見られたこと、反対に各教科書の特徴としては、直に書き込める工夫、デジタルコンテンツを他より多く活用、教科書の大きさが大きくなり見やすくしていること、1冊と分冊の扱いの違いなどについて特徴が伺えたことが挙げられました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、学校図書と東京書籍に関するご意見が多かったですが、学校図書を推すご意見が若干多く聞かれました。

学校図書では、単元の最後にまとめがあり学びやすい、ページに空間があり分かりやすく見やすい、6年間で身に付けたい見方・考え方の工夫が良い、中学校へ向けた先の見通しがもてる、全体的にすっきりした構成、3つの学びの力を提示し分かりやすい、思考し発展させる工夫がある、巻末の問題・ワークショップで定着を図れる、等のご意見がありました。

一方、東京書籍は、全体的に分かりやすく九九や割り算は分かりやすい、どこでつまずいたかを児童が自分で分かることができる、問題に取り組みやすい、表やグラフが段階的に取り上げられている、1年生の上巻はそのまま書き留められる工夫が良い、算数に親しめるようになっており、算数ノートは着実に力を身に付けられる、デジタルコンテンツの用具の使い方は大変効果的、等のご意見がありました。

そのほかの教科書についてのご意見は次のようなものでした。大日本図書については、めあてや前年度までのまとめのポイントが分かりやすい、数直線がとても分かりやすい、教育出版については、繰り上がりの小数が分かりやすい、とのご意見がありました。

そのほか、算数全般についてのご意見として、中学校で割り算、小数点、分数などでつまずくため基本的な段階で分かりやすいことが大切であるが、一方で先に進める児童へのフォローも必要だ、とのご意見がありました。

説明は以上です。ご審議のほどお願いいたします。

○**教育長（浅沼昭夫君）** 説明が終わりました。それでは、最初に松田委員、お願いいたします。

○**委員（松田 努君）** まずは学校図書です。こちらは、3つの学びの力を3つの学び方で進めていて、単元末に「深めよう・振り返ろう・つなげよう」で学習内容を活用できるようにしているのが良いと思いました。また、補充問題など個に応じた学習に対応していると感じました。もう1つは大日本図書です。こちらは考える課題である目当てがわかりやすいと感じました。巻末の前年度学年までのポイントのまとめは児童によっては非常に役立つものではないかと感じました。以上です。

○**教育長（浅沼昭夫君）** ありがとうございます。続いて日野委員、お願いします。

○**委員（日野佳昭君）** 算数は英語と並んで中学でついてこられなくなることが多いです。小学校でも繰り上がり、小数点、分数、割り算等々、つまずきがちな関門は毎時間出てきます。1つ1つがわかりやすく書かれているか、教師にとって授業がやりやすくなっているかを見ました。また、算数の得意な児童にも配慮され、自分で先に進めることができるかも大切と考えます。

まず、東京書籍と教育出版を推薦しました。東京書籍は全体の構成が数学的な考え方、解決、まとめ、振り返りと系統立てており、全体としてわかりやすい。割り算、小数点などつ

まずきやすい計算をわかりやすく説明しています。九九の説明も丁寧に感じました。補充問題も多く、算数の得意な児童にも配慮されていると思います。

教育出版は主体的、対話的でつまずきのポイントである繰り上がり、小数点、割り算等ポイントの説明がわかりやすく感じました。練習問題も適当な量で進んだ児童にとってもやりがいがあります。中学校で出てくるXYを用いる方程式が取り入れられ、中学校と連携しやすい構成が多くなっています。

このほか学校図書も計算の説明が丁寧で、系統的な学習によりわかりやすく良いと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、続いて平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は3社について推薦順に申し上げます。第1に、東京書籍です。1、問題解決の過程を重視した教科書であり、各単元における大切な視点が示されています。児童が既習事項を生かして問題を解決できるように、具体列、絵や図、数直線、表やグラフなど活用しやすいように丁寧に扱われています。児童が主体的に問題解決に取り組む中で、基礎・基本の定着を図り、数学的な思考力・判断力・表現力を高められると期待できます。2、1年の上巻はA4判でレイアウトにゆとりがあり、図やイラスト、書き込むスペースも大きく、1年生の児童が教科書にそのまま書き込むことができるように配慮されている。算数の入門期における1年生が算数に親しみやすいように工夫されていると感じました。3、2年生以上の学年では「学びのとびら」に問題解決の学習について問題をつかもう、自分の考えを書きあらわそう、友だちと学ぼう、振り返ってまとめようが、わかりやすく示されていて、児童が算数の学習に見通しを持って取り組めるようになっている。4、またマイ算数ノートではノートづくりの基本や工夫の仕方が示されており、児童が算数の学習を着実に積み重ねていけるように工夫されている。5、教師にとっては各単元で問題解決の過程において、児童に育てたい資質・能力を押さえた授業づくりに有効活用できる紙面構成になっている。

次に大日本図書です。東京書籍と同じく、問題解決の過程を重視した教科書であり、各単元において大切な視点が示されています。児童が既習事項を生かして問題解決できるように具体物、絵や図、数直線、表やグラフなどが活用しやすいように丁寧に扱われている。2、中でも数直線図の使い方について1年生、数の線の仕組みから段階的に発達段階において丁寧に扱っていて、5年生の巻末には数直線図の書き方では、数直線図についてのまとめが示してあり、児童が数直線図を活用して、数量の大小関係、演算決定、数学的表現力等に大変有効活用できると感じました。3、2年生以上の学年では算数学びナビに問題解決の学習の進め方や、ノートの書き方・話し方・聞き方などがわかりやすく示されていて、児童が算数の学習に見通しを持って取り組めるようになっているということを感じました。

次に学校図書です。1、A4判であり、大判になっておりレイアウトにゆとりがあり、児童にとって見やすくわかりやすい教科書だと感じました。図形、表やグラフなど教科書に書き込めるスペースも十分に取ってありました。2、2年以上の学年では3つの学びの力を育てようという思考力・判断力・表現力の育成について、児童にとってもわかりやすいように示されています。また、教師の授業づくりの指針としても活用できると感じました。3、児童の各

単元の学習を着実に進める中で、基礎・基本となる知識・技能を身につけられるよう配慮されていると感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、続きまして新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私も2社です。まず、学校図書です。第一に全学年とも余白が多く、紙面がごちゃごちゃしていなくて大変見やすいなと思いました。集中が切れやすい低学年なども先生がどこを指しているのか、どこの話をしているのかも読み取りやすいかなと感じました。それから、6年間を通して身につけさせたい見方、考え方をキャラクター化して教科の中でわかるようにしているところも良かったと思います。それから小中連携を見据えて6年生の教科書は上下1冊となって、中学校への架け橋という中学校の内容の一部に触れているところが、中学校への子どもたちのこれから進むところが少し見えるような作りになっているところも良かったと感じました。

次に東京書籍です。こちらは単元の終わりの仕上げの問題で、右側に学んだページが書かれているのが、復習する際、どこでわからなくなってしまったのか、お子さん自身が確認できる配慮がされているのがとても良かったと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。最後に私の意見を申し上げます。私は算数に学校図書を採択したいと思っています。A B判で全体として大きく見やすいです。スッキリとしたページ立てになっていること。それから、2学年から3つの学びの力ということで、考える力、判断する力、あらわす力を提示し、既習事項に活用、予想、考え方の根拠など、思考力を発展させる工夫がなされているということです。これで主体的・対応的で深い学びを意識して動機づけ構成されているということ。それから巻末の問題ですね。補助的に構成し、ここに学習定着度が理解できることから、先生方や保護者にとって励ましの根拠に利用できるのかな、そういうふうな工夫されていると感じました。

それでは、ほかに論議を踏まえまして、ご意見等ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

それでは、算数につきましては、意見が分かれるところもございましたけれども、全体として原案どおり学校図書を採択することにご意見ございませんか。よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして理科について説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 理科については、写真、イラスト、図表などを多用し、器具の基本的な使い方や学習の仕方などの分かりやすい工夫、問題解決の学習ができる工夫などが各教科書に共通して見られ、プログラミング学習については、4社が発展的な扱い、1社は問題の一つとして扱っていることが挙げられました。デジタルコンテンツについては、各教科書の特徴といえる違いはありますが、QRコードによる部分的な差異はなく、本の作りでは、他よりも大きくかつ軽量の工夫がある教科書があるなどが挙げられました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、特に東京書籍に関するご意見が多く聞かれました。教師や保護者が見ても楽しめる、単元の流れやまとめが分かりやすい、授業に見通しがもちやすい、A4判とサイズが大きくなり、1ページあたりが見やすい、理科の学び方やノートの書き方など基本的技能を身に付けるのに良い、とのご意見が聞かれました。

そのほかの教科書についてのご意見は次のようなものでした。大日本図書については、生命のつながりでは動物・植物・人も命あるものとして取り上げており、人の誕生では羊水に関する記述もある、実験の注意事項が分かりやすい、玉手箱や事例は発展の学習に結びつけやすい。学校図書については、変化が分かりやすい、本市にもあるプラネタリウムにつながる学習ができるのではないかと。教育出版については、月の動きについては府中で撮影されたものが掲載され多摩地区の資料が多いため自分たちの地域に親しみがもてる、中学校までの単元の系統性がある。新興出版社啓林館については、提示が分かりやすい、などのご意見がありました。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。最初に松田委員、お願いいたします。

○委員（松田 努君） 先日の臨時会では2社を選ばせていただきました。まず、1つは啓林館です。こちらは見つける・調べる・ふりかえるの学習過程で、問題、観察、実験、そして結果、まとめなど表示が順を追っていて、シンプルでとてもわかりやすい。また、つなげようのコーナーでは事例に興味を持ち、学習したことをいろいろ結びつけることができ、非常に良いなと思いました。

もう1つは学校図書です。こちらは写真が多く、変化の様子がわかりやすい。また、月や星座、星の動きも単元では星座など授業に興味をより持てるように思えました。府中市自慢のプラネタリウムの学習にもつながっていくのではないかと感じました。

候補に上がっています東京書籍に関する私の意見ですけれども、今までの学年に関連する内容が載っていて、学んだことを使おう、振り返りや気づきにつながるので良いと思います。また、理科の広場のコーナーは関連することや発展することに興味を持てるものとなっております。以上のことから、東京書籍も問題ないと私は感じます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 理科は日本の基礎技術を支える科学者を育てる上で大変大切です。理科の授業に興味をわき、楽しいものであってほしいです。

東京書籍は学び方が3区分され、単元ごとにまとめまで同じ作りになっている。字の大きさの違いも加えて見やすくわかりやすく作られている。大日本図書と教育出版は高度な内容が含まれ、発達段階に応じた作りで興味深い。特に、教育出版は季節による内容の変化があり、また、裏表紙に安全の手引きがあるのが良い。この3社を推薦しました。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は2社を推薦いたします。まず、東京書籍です。1、本の作りとしてサイズがA4判になり、1ページ当たりの情報提示が見やすく構成されています。また、実験、観察の流れが整理されていて、児童にとって理科の学び方に見通しが持てるようになっており、教師にとっては授業の流れが把握しやすく工夫されていると感じました。2、巻頭にある「理科の学び方」問題をつかむ、調べる、まとめるを用いて、年度当初における理科の学習で活用できる。また、各単元の学習を進める中で随時活用することもできると感じました。3、鮮明な写真と美しい絵で構成されていて、授業者、教師が見ても児童が見ても保護者が見ても楽しくなり、理科の世界に興味、関心が持てると感じます。例えば、3年、蝶の育ち方、観察2・3は鮮明な写真に加え、ページのレイアウトも工夫されており、児童

の興味・関心を引き出し、学ぶ意欲を高める工夫がなされていると感じました。また、ほかに4年、天気と気温、植物の成長などにおけるページも非常に児童が問題意識を持つために効果的だなと感じました。4、巻末資料、理科の調べ方を身につけようは、ノートの手書き方や自然観察の仕方、実験器具の使い方など基本的な技能を身につけるために活用できると感じました。5、インターネットマークを示した箇所の説明や動画など、学習への興味、関心を高める充実したデジタルコンテンツが用意されていると感じました。

次に教育出版です。1、巻頭学習の進め方、ノートの取り方は年度当初における理科の学習で活用できる。2、児童が主体的にかかわれるように身近な自然に関して、直接体験を重視した観察、実験を行い、児童が実感を伴った理解がなされるように配慮されていると感じました。3、各単元の初めに学習のつながりが示されていて、児童が他学年との関連や、中学校への発展を見通して学習ができるように工夫されていました。また、教師にとっても授業づくりの指針として活用できると感じます。4、裏表紙、理科の安全の手引きは、児童が常時活用できて、各学年に応じた安全、配慮がなされていると感じました。5、5年生、流れる水と土地の学習では、多摩川の上流と下流の写真が取り上げられていて、府中市の子どもたちにとっても身近な差を感じると思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私はまず、教育出版です。こちらは馴染みのあるキャラクターを使ってわかりやすく説明されているところが良かったと思います。また、3年生と6年生の教科書では月の動きの写真が府中市となっていて、子どもたちも興味や関心をより持つのではないかなと感じました。多摩地区の市の写真も多数掲載があり、身近に感じることができるのかなと感じました。それと、今、平原委員もおっしゃいましたが、単元の最初のページの中学校までの前後の系統性が載っているというところでは、小学校から中学校に向けた流れが子どもたちにもよく理解できていいのかなと感じました。

次に東京書籍です。東京書籍は目次に4区分が明確に載っていて、前学年で学んだことが記述してあるのが、大変子どもたちも振り返りができていいかなと感じました。ちゃんと単元ごとの表紙にその単元に必要な前学年までに学習した内容が載っているというところも、子どもたちがわかりやすくいいと思います。それと、川の学習で多摩川ということで身近な題材が出ているというところも、子どもたちの興味をそそってより学びたいと思う教科書ではないかなと感じましたので、2番目に東京書籍を推薦させていただきます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。最後に私の意見を申し上げます。大変細かい点で恐縮なのですが、この教科書を見たときに気づいたことを幾つかお話しします。

1つは、子どもたちが実験後の片づけの際に、試験管を試験管ブラシで洗うときに、そのブラシで底を突き破ることがままあります。教科書によっては底を突いて壊さないという、そういう表記の仕方が1つ。もう1つはブラシを短く持ちなさいという指示がある。大変細かいところなのですが、どちらのほうがいいのかなということを感じた次第です。もちろん私は後者のほうが具体的に指示する、そしてなるべく子どもたちに試験管を持たせることは大事かなと感じました。それから教科書の中には、せっかくカラー写真なのに方位磁石のN極、これ赤の表示が見にくい写真があるものもありましたし、それから復習問題にこ

れはちょっとどうなのかなという、そういうものも感じた部分もありました。

こうした点を踏まえながら、臨時会では大日本図書を推しました。その理由を申しあげます。1つは、5年生の生命のつながりとして、人とめだかとアサガオ、人と動物と植物を一体として取り上げて、動物も植物ももちろん人もですね、仲間を増やすという働き、それから成長するという働き、生物としての特徴を一体的に把握するような紙面づくり、教科書づくりができています。これは目を引きました。同じく、人の誕生の子宮の様子のところ、羊水に関する記述がより正確で、胎児の生命がどういうふう維持されているか、成長をどのようにしていくのか、あるいはその神秘さといったものが把握できる、細かいところですけども、表現になっていると思います。それから実験の最後の注意事項がわかりやすい。あわせて5年生の植物の発芽のところでは、これは郷土の森公園の大賀蓮の扱いがあります。それから、発展的な利用や日常生活の事例と学習内容を結びつけている。これは新しい学習指導要領ではポイントになるところだと思いますけれども、この工夫がなされている。興味や関心を高め、学習意欲の向上に寄与することを期待して、臨時会では大日本図書を推薦しました。

次の候補として、これは考えることが違うと思いますけれども、サイズがちょっと大きくなった東京書籍ですね。学習機とかあるいは理科の実験室での扱い等とか、どうなのかなと感じた次第ですが、これも課題解決について東京書籍は定評がありますので、作りもそういうふうになっていますから、これについても第二候補として挙げました。そして、改めて臨時会を終えて、委員のご意見を踏まえながら、もう一度熟考した、見直した結果、東京書籍を採択することに異議はございませんという状況になります。

ただいまの意見等につきまして、何かご質問とかご意見等はございますか。よろしいですか。

それでは、理科については意見が分かれるところもありましたけれども、原案どおり全体として東京書籍を採択するというご意見、ご異議ございませんか。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 続きまして、それでは、生活について説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 生活科については、各教科書共通して、スタートカリキュラムを導入で使い、上下巻の構成であること、全体的に国際社会、福祉社会を意識した作りになっている印象であること、扱いに注意が必要なものは工夫した注意書きがあること、学習の段階を踏んだ構成であったり、原寸大の図鑑が付いていたりなど、子供が学習しやすい工夫があることが挙げられました。「あんしんあんぜん」の単元内容で東京都教育庁防災ノートより引用されているものがあることや、本の作りでは、A4変形版が多く、各教科書の違いがあることが挙げられました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、特に東京書籍に関するご意見が多く聞かれました。その中でも、ポケット図鑑を取り上げた委員が複数おり、いずれも分かりやすい、興味を引くなどの高評価のご意見でした。ほかにも、入学してすぐに使える内容を掲載していること、デジタルコンテンツが家庭学習にも使えて良いこと、活動便利帳が良いなどのご意見も複数の委員からありました。

そのほかの教科書について、ご意見は次のようなものでした。大日本図書について、道具

箱が設けられており、児童のニーズにマッチしている、デジタルコンテンツの資料が良い、教育出版について、学習のポケットは学習に活用できる、近隣の市が掲載されている、どんど焼きなど府中市内でも行っている地域の児童にとっては興味がわく。日本文教出版について、第1学年に約束や学びが取り上げられている、写真・イラストの工夫がある、季節や植物が取り上げられている、などのご意見がありました。

説明は以上です。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。それでは、松田委員、お願いいたします。

○委員（松田 努君） 私はまずは、東京書籍です。こちら全体的に写真、文字が大きく見やすい。また、ポケット図鑑もきれいで見やすく、興味を引き、学習意欲につながると思いました。また、活動便利帳もわかりやすいと思います。また、安全・安心につながる項目も自分の身を守るところや通学のこともあって良いと思いました。

もう1つは、大日本図書です。こちら安全・安心につながる項目がいろいろな場面を説明していて、安全行動につながるのではないかと思います。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続いて日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 生活はまだ小学校生活になれない児童にとって、スムーズに集団生活、集団行動をするために大切です。わかりやすく興味が持てる内容か見ました。日本文教出版と東京書籍を推薦します。日本文教出版で一番感じたことは、全体に見やすく、季節や時期に応じた単元の配列となっている。植物などの図がうまく配置されています。子どもが気づくことのできる知識、技能が身につく、思考、判断、表現力を伸ばし、次の学年、授業につなげるという基本方針に沿った教科書ができていると感じました。点字の紹介もあり、興味がわきます。

東京書籍は動植物図鑑、草花、生き物の写真が大きく、たくさん使用されて児童たちが興味を持てる作りです。各単元がうまく配置されており見やすい作りとなっています。保護者と学ぶデジタルコンテンツは家庭教育使用の面でも活用できます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続いて平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は東京書籍と日本文教出版を推薦します。まず、東京書籍についてです。1、入学から2週間の生活科の学習活動が「どきどきわくわく1ねんせい」に掲載され、入門期への配慮が十分になされていると感じました。2、大判A4判の紙面で、写真やイラストが豊富でレイアウトも工夫され、児童が見やすく、興味・関心を引き出し、活動への意欲を喚起することが期待できると感じました。3、小単元名、約束、注意喚起のマーク、記録カードの例示など定位置に示されている紙面構成になっていて、児童が活動への見通しを持って取り組めるようになることが期待できます。また、教師にとっては授業づくりへの手がかりとなり、活用しやすいと考えられます。4、巻末資料、活動便利帳は安全や健康に生活するための大切なポイントがまとめられていました。5、別冊の原寸大ポケット図鑑は児童の気づきや発見を促す便利な資料であると感じます。6、児童の写真の吹き出しに活動する中での感想や思いが書かれていて、児童の気づきを促していると感じます。この内容は知識、理解、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力への育成へとつながるように配慮されているなど感じました。

次に日本文教出版についてです。1、巻頭10ページを超えて「1年生になったら」が掲

載されており、小学校の入門期への配慮がなされています。学校における人とのかかわり、約束、学び、遊び、身の回りの安全など児童に喜びや期待を持たせることができます。2、鮮明な写真やイラストが豊富で、レイアウトも工夫されていて、児童にわかりやすい教科書だと感じました。3、ページ構成に統一性があり、児童が利用しやすいと感じました。4、ポケット図鑑のイラストが美しく、非常に見やすいと感じました。5、植物や生き物、おもちゃ作りなど具体的な記述が多く、児童が興味をもって主体的に活動できると感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。続いて新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私はまず、教育出版です。理由としては、巻末の学びのポケットが観察や調査のまとめの方法や学習内容に沿う本が掲載されていて、児童が学習の際に活用できるのがいいなと思いました。それと、多摩市で行われているどんど焼きが掲載されました。府中市でもどんど焼きをやっている地域がありますので、子どもたちも身近に感じる教科書かなと感じました。

次に、東京書籍です。こちらは今、幾つかお話がありましたが、入学から2週間の生活科の学習活動が「どきどきわくわく1ねんせい」ということで掲載されていて、1年生が学校生活に少しずつ慣れていくのに即した内容となっており、とても良いと感じました。それと、ポケット図鑑に示された動植物の大体が市内でも見られる植物だということで、そちらも使い勝手がいい教科書なのかなと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。最後に私の意見を申し上げます。私は生活につきまして臨時会では大日本図書を推しました。その理由として、学習のまとめや発展学習に活用できる。そして、イラストや写真の印象が発達段階にマッチしているかなと思いました。それから、自分の安全は自分で守ろうとありまして、子どもの安全という現代の社会的課題にマッチしているのかなと思いました。

次に、私が気を引かれたのは、動物や植物に直接手を触れる行為というのはもちろん教育的価値があるわけですが、大変学習の意欲を高めるという効果が期待できますが、その際の感染症対策等々、手を洗うなどの注意配慮が適切に行われているといったことで、大日本図書を推しました。

続いて次の候補としては、ポケット図鑑などの工夫と充実、活動の広がりとともに学習がはかどっていく内容構成、保護者に便覧としてデジタルコンテンツを案内する東京書籍を推しました。

結論といたしましては、東京書籍を採択することに私は異議ございません。以上です。

それでは、ご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。

それでは、生活については原案どおり、東京書籍を採択するというご異議ないということでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて音楽です。説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 音楽科については、発達段階に即した内容構成、児童の実態に合った選曲、写真やイラストの工夫などが2社に共通してある一方で、特徴的な違いが挙げられました。1社は、担任が使いやすく、単元のポイントがつかみやすいようキャラ

クターを使っており、6年間で学ぶことが分かりやすい構成になっていること、あとの1社は音楽専科の教員が使いやすく、透明フィルムを利用し、楽器などが分かりやすく見やすい工夫があることが挙げられました。QRコードのデジタルコンテンツは、1社は教科書の冒頭に1か所、目次のような付け方をしており、もう一方は関連する箇所に記載がありました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、全委員が教育芸術社に関するご意見でした。最も多かったご意見は、分かりやすい、ということで、見開きで一年間の内容が分かりやすい、段階的な内容になっており、單元ごとの内容が分かりやすい、説明が分かりやすい、というご意見でした。そのほか、資料が関心を引き出しやすい、覚えてほしい日本の曲があるなど選曲が良い、英語の曲を扱っており、これから始まる外国語との関連がある、音楽を専門としない教員が使いやすい、デジタルコンテンツの資料では指揮の動画などが分かりやすい、などのご意見がありました。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○**教育長（浅沼昭夫君）** 説明が終わりました。それでは、最初に松田委員、お願ひいたします。

○**委員（松田 努君）** 教育芸術社の理由としましては、1年間の学習内容がイラストでわかりやすくなっていることと、鑑賞の写真、イラストが楽曲とマッチしていて、より関心を持ち、楽しく学べるのではないかと感じました。以上です。

○**教育長（浅沼昭夫君）** ありがとうございます。続いて日野委員、お願ひします。

○**委員（日野佳昭君）** 音楽は選んである楽曲の内容で教育芸術社を選びました。より心に残る懐かしい、覚えてほしい日本の昔の曲があります。全体的に見やすく配置されていると思います。鍵盤ハーモニカとリコーダーの基礎練習などわかりやすい内容です。情操教育より音楽とつながるという考えに賛同しました。英語の曲が3年生から各学年に取り入れられていることは、英語教育との連携でいいと思います。以上です。

○**教育長（浅沼昭夫君）** ありがとうございます。続きまして平原委員、お願ひします。

○**委員（平原 保君）** 私は、以下4点のような理由から教育芸術社を推薦します。1、発達段階に応じて音楽的な見方・考え方を働かせながら学習を積み重ねて、段階的に基本的な力が身につくように配慮されていると感じました。2、「みんなでたのしく」から児童の実態にあった曲を選曲することができます。3、学年ごとのキャラクターの発言により、単元のポイントをつかみやすくなっていると感じました。4、低学年など、音楽を専門としない担任の教員が指導する際にも、活用しやすいと考えられます。以上です。

○**教育長（浅沼昭夫君）** ありがとうございます。続きまして新島委員、お願ひします。

○**委員（新島 香君）** 私は教育芸術社を推薦します。学年ごとのキャラクターの発言が大変単元のポイントがつかみやすいものとなっていて、子どもたちもわかりやすいかなと感じました。それと、学年共通して單元ごとに色分けされているので、1年生から6年生を通して何を学ぶのかがわかりやすく、各学年の見開きの最初のページに1年間の学習内容が豊富なイラストでまとめられているので、こちらも子どもたちがわかりやすく、いいかなと感じましたので、教育芸術社を推薦させていただきます。以上です。

○**教育長（浅沼昭夫君）** それでは、最後に私の意見を申しあげます。音楽科は教育芸術社を推したいと思います。その理由としては巻頭の学習内容のイラストとともにわかりやすく

指示して見通しにつながる。「みんなでのしく」がありまして、選曲の手だてとなる。それから楽譜も読み取りやすいということも特徴だと思いました。それから関連のページにQRコードが記されて、その内容の記述があり、直接QRコードを通して音楽を聞いたり、関連情報を調べたり、中には指揮の仕方、棒の振り方の動画を見ることもできたという点もすぐれていると思いました。それから、ふりかえりのページとして学習内容のまとめが示されている。国歌「君が代」のページでは各学年に説明、写真などが工夫されているということです。ということで、教育芸術社を推したいと思いました。

それでは、ただいまのご意見等につきまして、ご質問等がございますか。よろしいですか。

それでは、音楽につきましては全員一致ですけれども、原案どおり教育芸術社を採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 続きまして図画工作でございます。説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 図画工作科については、多くの作品が掲載、写真や資料が多用され、子供の興味を引き出す工夫がある、思考を促す構成などが2社に共通して挙げられる一方で、2社の違いとして、QRコードを活用して関連内容が見られる工夫があることと、児童の作品を多数掲載し意欲を引き出しやすくしていることについて挙げられました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、特に日本文教出版に関するご意見が多く聞かれました。様々な芸術作品を掲載している、児童の作品が多く掲載されている、友達と関わりながら複数の児童が楽しく学べる、地域との連携として「美術館へいこう」は府中市の美術館と関連しやすい、気を付けよう・片付けようなど安全配慮や基本的な指導にポイントが示されていて良い、デジタルコンテンツはないが、イラストや写真が多用されている、などのご意見がありました。開隆堂出版については、明るく見やすい、デジタルコンテンツの資料によって興味が広がる、というご意見がありました。

説明は以上です。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。それでは、最初に松田委員、お願いいたします。

○委員(松田 努君) どちらも明るく、見やすい作りで、児童の意欲を引き出すようなレイアウトや色使い、身近なものを教材に多く使用して興味を引いていて、どちらも良いと感じました。どちらかを選ぶならば、QRコードでさまざまな関連した内容を見ることで興味がより広がるのではないかと考えて、臨時会では開隆堂出版を推させていただきました。両者理由がそのぐらいしかないなので、日本文教出版でも私は特に問題ないと考えています。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。それでは、続いて日野委員、お願いいたします。

○委員(日野佳昭君) 私もどちらの教科書もわかりやすく、読みやすくできており、良いと思います。日本文教出版はいろいろなイラスト、作品や活動している写真が多くわかりやすい。安全への配慮は片づけへのアドバイスがあるのも良く、日本文教出版を推薦します。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。それでは、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は日本文教出版を推薦します。1、児童が楽しそうに作品づくりや活動している様子がわかりやすく紹介され、その作品が掲載されています。また、児童の気づきやつぶやきなどが吹き出しに記述しており、児童が何をどのように学ぶのがよくわかります。低学年のものは文字も大きく読みやすいように配慮されていました。2、児童が友だちとかかわりながら創り出す喜びを感じて活動している様子も多く紹介されています。さらに、喜びや感動を共有するように複数の児童が作品を鑑賞する写真も掲載されていました。3、児童が材料や用具の使い方がわかりやすく示しており、技能を着実に身につけさせられるように配慮されていました。4、子どもの発想を広げるヒントが大きく掲載され、3つの学習の目当てが明示されています。5、地域との連携につながる活動も掲載され、府中市美術館との連携推進にも適しているなど感じました。6、これは両者に言えることでしたが、写真が美しくレイアウトもすっきりしていて見やすいと感じました。7、5、6年下巻の巻末に中学生になるあなたへというメッセージがあり、つくり出す喜び、人や社会とかかわる喜び、自然や文化のおもしろさや美しさを感じ取る喜びを大切に生きてほしいというメッセージが書かれているのも心を引きました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私は日本文教出版を推薦します。理由は写真やマーク、イラスト、吹き出しなどが豊富にあつて、QRコードはありませんが、豊富なそういった資料が掲載されている教科書ですので大変わかりやすく、また低学年用のものは文字も大きく読みやすかったのが良かったです。あとは、実際に児童が作った作品が多く、写真でも紹介されていたので、児童自身の意欲を引き出すのにとってもいい教科書だなと感じましたので、日本文教出版を推薦いたします。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。最後に私の意見を申し上げます。開隆堂はご指摘がありましたように、QRコード等がページにあり、学習ができるという点はすぐれているのかなと感じました。その上で、図画工作は、私は日本文教出版を推したいと思います。「美術館へ行こう」では、府中市美術館と連携した指導があり、本市にふさわしいかなと感じました。作品や材料の写真やイラストも洗練されていて大変見やすい。それから巻末に材料と用具のページを設けて、発達段階にあわせて効率的かつ効果的に材料や用具の使い方をまとめて提示している。教科書の見開きの左上に、鑑賞、絵、工作、立体など学習課題を端的に示してわかりやすい体裁になっている。鑑賞活動や表現の技法について具体的な表現などわかりやすい工夫がなされているということで、日本文教出版を推したいと思います。

それでは、ただいまのご意見等を踏まえまして、ご質問等はございますか。よろしいですか。

それでは、図画工作につきましては、原案どおり日本文教出版を採択するというごことにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、家庭科について説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 家庭科については、例示や作品の掲載などで子供の興味・関心を引く工夫がある、問題解決や深い学びができ、学習の連続性や系統性を踏まえた

構成であることが2社とも共通している一方で、2社の違いとして、1社は原寸大の写真等資料が見やすく、全体的に学級担任や若手の教員が使いやすい印象、もう1社は大きさがコンパクトで、調理の実習などで使いやすい工夫は経験の長い教員が使いやすい印象であることが挙げられました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、開隆堂出版に関するご意見が多く聞かれました。基礎的・基本的なことが身に付きやすい、右利き左利きの記載があり、分かりやすい、実習に使いやすい、繰り返し使用でき予習復習にも使いやすい、食材や料理などの写真がきれい、英語と調理は府中市の取組に通じる、QRコードによるデジタルコンテンツが付いており家庭で家の人と一緒にできる、などのご意見がありました。

東京書籍については、資料が見やすい、原寸大で分かりやすい、興味を引く調理で食べるだけでなく作る楽しさも味わえる、プロのコーナーが面白い、他教科との関連がある、などのご意見がありました。

説明は以上です。ご審議のほどお願いいたします。

○**教育長（浅沼昭夫君）** 説明が終わりました。それでは、最初に松田委員、お願いいたします。

○**委員（松田 努君）** 私は東京書籍を推薦しました。主な理由としましては、他教科との関連性、今後学習する項目をととてもわかりやすくまとめてあります。生活を変えるチャンス、プロに聞く日本の伝統などの各コーナーもおもしろく、学習や実習の意欲につながっていくと感じたのが主な原因です。候補となっています開隆堂に対する私の意見は、家庭科に関する用語を英語でどう表記するかを後ろのページなどに書かれており、英語とのつながりという意味では良いと思います。また、QRコードで映像を見られるのはとてもわかりやすいなと感じました。以上です。

○**教育長（浅沼昭夫君）** ありがとうございます。それでは、続きまして日野委員、お願いします。

○**委員（日野佳昭君）** 家庭科は私にとってあまり好きと言えない科目でしたが、共同作業をすることで、子どもたちのコミュニケーションの場となり大切な科目だと思っています。東京書籍は手順がわかりやすく記載されている。開隆堂は細かくいろいろな知識が含まれている。どちらも良いのですが、私は英語教育などが含まれている開隆堂を推薦したいと思います。

○**教育長（浅沼昭夫君）** それでは、続いて平原委員、お願いします。

○**委員（平原 保君）** 私は開隆堂を推薦します。その理由として、1、児童が見て、基礎的・基本的な知識及び技能を習得するために、わかりやすい表示である。例えば、裁縫の基礎技能としての玉結びや玉どめなどについて、各ページ、右上の2次元コードを読み取ることで動画等のデジタルコンテンツを使用して見ながら学習することができます。また、右利き、左利きについての対応資料が非常に使いやすいと感じました。児童も活用しやすく、教師も提示資料として有効活用できると感じました。また、ミシンの使い方など見開きページにすっきりしたレイアウトで示し、児童にとって非常にわかりやすいと思います。また、ご飯の炊き方や味噌汁の作り方などの調理についても見開きページですっきりしたレイアウトで簡潔に示し、児童にとって非常にわかりやすいと感じました。このように繰り返し積み

重ねて基礎基本を着実に身につけられる教科書だなど感じました。2、児童が予習や復習などにも活用しやすい、授業以外の場面、家庭においても使いやすい教科書だなど感じました。3、「安全に実習しよう」で、児童が安全に留意できるような表示が工夫されていていいと思いました。4、巻末に、用具の外国語表記一覧表が示してあり、日常生活における英語の習得にもつながると感じます。府中市独自のCooking in Englishの取組などと関連づけて活用できる教科書になるなど感じています。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私はまず、東京書籍です。やはり資料が見やすいということ、原寸大でわかりやすい。いろいろな調理の例が示されていて児童の興味、関心を引く内容でわかりやすさがいいと感じました。調理や裁縫の完成図も初心者にもわかりやすいのかなと感じました。色使いや文字の大きさなども読みやすく、写真、イラストも多くわかりやすいと感じました。

もう1社の開隆堂のほうですが、先ほど最初の説明にもありましたけれども、教科書のサイズがちょうど良いのではというところ、また、ベテランの先生向けで使いやすいという説明がありましたが、その点もとてもいいなと感じました。家庭科に関する用語が英語で表記されているところに、今、数名の委員の皆さんもおっしゃっていましたが、その部分においては最初にあったCooking in Englishにつながる部分もあり、子どもたちにとっても意味のある、家庭科のみならず英語にも興味を持つことができる教科書のかなと感じています。

環境汚染について書かれている使用済みの危ない洗剤について書かれているところなどは、今までに日本が取り組んできたこと、また、これから取り組んでいかなければいけないことについて、生活に根ざした部分ですので、そちらが学べるというところも開隆堂もいいなと感じました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、最後に私の意見を申しあげます。家庭科は2社でございますけれども、教科書のサイズが違いますね。東京書籍はA版、開隆堂はAB版だと思います。ともにページの下に家庭科の用語を英語で示している。先ほどご指摘があったとおりでございます。そして、あわせて開隆堂出版には一覧表がついています。英語科の導入を意識した作りというものもありますけれども、これは英語でクッキングなどアクティビティを2教科で行う。私は開隆堂を推したいと思っています。ページ下に一口メモという欄がありまして、これは学びを広げるヒントになっていくのではないかと感じました。それからサイズは小さいほうがいいのかなというのは私の勝手な思い込みかもしれません。食材や料理の写真が鮮やかに感じました。そして、最後にQRコードがページごとに表記されておりまして、使いやすく実習や家庭学習、場合によっては学校で学んだ調理のレシピを家庭で保護者と一緒に調理をするなんて、そういう工夫もこれからはできていくのかなと思います。ICTの活用ということはこんなところにも新しい利用ができるのかなと感じた次第です。したがって、私は、家庭科は開隆堂を推したいと思いました。

ただいまの意見について、何かご意見、ご質問等はございますか。教科書は2社しかございませんので、2つに分かれましたが、どちらかという、開隆堂を推す声が多かったと思いますけれども、家庭科は原案どおり開隆堂出版を採択するということにつきまして、ご異

議ございませんか。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、続きまして保健について説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 体育科保健については、興味、関心を引き出す工夫などや発達段階に応じた配慮などどの教科書にも見られたこと、また、教科書が小・中学校で同一である必要はないのですが、小中の連携や学習内容に系統性が必要であること、特に、LGBTや第二次性徴など、性に関することやいじめに関する事などは学校や市民の関心も伺え、人権教育や道徳にも関連するため、他教科との関連を確認する必要があることなどが挙げられました。これを踏まえ臨時会での協議では、特に、学研教育みらいに関して、全委員からご意見が聞かれました。まとめて深めるなど解決する力を身につけるのに効果的、情報が整理されていてわかりやすい、性など体や心の悩みや不安解消に関する内容についてすぐれている、薬物や喫煙などは法に触れながら解説されているなどのご意見があり、デジタルコンテンツについては使いやすいなど、複数の高評価のご意見が聞かれました。

そのほかの教科書について、ご意見は次のようなものでした。東京書籍については、手の洗い方やケガの手当などの資料がわかりやすい、他教科との関連がある、近隣の市が複数掲載されている。光文書院については、LGBTを含めた性に関することや、がん教育などが丁寧に扱われている、広げる・深めるで興味、関心が持てる工夫がある、学習の流れがわかりやすい、オリンピック・パラリンピック選手の写真が掲載されているなどのご意見がありました。

説明は以上です。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。それでは、松田委員、お願いいたします。

○委員(松田 努君) 私からはまずは光文書院です。こちらはオリンピック・パラリンピック選手、また、候補選手の写真、コメント、サインがあり、健康に対する意欲や興味を持てると感じました。また、性についての悩みやLGBTに配慮した内容がとてもわかりやすいと思いました。

もう1つは学研教育みらいです。各章のまとめとなる、ふりかえる・深める・つなげるはとてもわかりやすく、良い構成になっていると感じたからです。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。続いて日野委員、お願いします。

○委員(日野佳昭君) 心身の健康を保つための保健は小学校の児童に必ず理解してほしい教育です。わかりやすく、親しみやすい教科書かどうかを大切に選びました。学研教育みらいと東京書籍を推薦します。学研教育みらいはイラストや写真が多く、子どもたちが興味を持てる。デジタル教材を積極的に採用している。悩みやいじめについても記載がある。どの単元も最後にまとめる・深めるという作りで理解しやすい。東京書籍も学習の進め方に流れがあり、内容も細かくわかりやすい。英語の部分もあり、他教科の関連付けがある。

以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。続きまして平原委員、お願いします。

○委員(平原 保君) 私は学研教育みらいと光文書院を推薦します。1、学研教育みらいについて、1時間の学習の流れをつかむ、考える・調べる、まとめる・深めると本文で構成してあり、児童が見通しを持って学習できます。そして、各章の内容構成が、健康につい

て自己の課題を見つけ、考えたり調べたりして解決する力を高めることに効果的だと感じました。2、写真とイラストが効果的に使われていて、児童にとって非常にわかりやすい、情報が整理されていて見やすい、わかりやすいと感じます。3、発達段階に応じた配慮がなされ、児童の理解や不安解消へつながると期待できます。4、生涯にわたって安全な生活を送るための知識、理解、習慣へとつながると考えます。5、学習を深める、もっと知りたい、調べたいのページは資料が豊富でわかりやすく、児童の期待に応える内容や表記になっていると感じます。

次に光文書院ですが、1、巻頭、「学習の進め方を知ろう」に、自分の生活を振り返るから、自分の生活に生かす・伝えるまでの学習について、児童にわかりやすく示されています。各単元について児童が課題意識を持って取り組んでいくことが期待できます。2、性についての悩みの内容は丁寧に示され、児童の心の不安に寄り添った扱いとなっています。また、心の健康に関しても不安や悩みなどへの対処について丁寧に取扱われていました。3、けがの防止については学校や地域での安全についてわかりやすく示されていました。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私は、まず、学研教育みらいです。広げる・深めるためのページ、資料をもとに構成されているのがいいと感じました。デジタル教材が積極的に採用されていて、わかりやすいなと感じたところが良かったです。次に東京書籍です。こちら3年生では手の洗い方、5、6年生ではけがの手当をしようということで、実習の方法など写真や表を入れてわかりやすく説明されているのがいいなと思いました。あとは稲城、八王子、青梅など多摩地区の写真等が掲載されていて、子どもたちが身近に感じられるかなと思ったところがいいなと思いました。各巻にある資料を視覚的に捉えやすいように一目でわかるような工夫がされているのも興味、関心を引けていいかなと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、最後に私の意見を申しあげます。保健は学研教育みらいを推したいと思います。体や心の成長が顕著となってくる小学校高学年の悩みや不安について学ぶことから全体的に明るい印象の構成が好ましく感じました。単元ごとにふりかえる・深める・つなげるページが設定され、学習を振り返るとともに自らのより良い日常生活につながるのかと感じました。それから、喫煙、飲酒、薬物乱用防止について、法にも触れながらその害について丁寧に示されている。誘われたときの断り方など、社会的解決しているのが子どもには資料として、適切な扱いがなされていると感じました。外出の際、あるいは自然災害、交通事故防止、自転車の乗り方など、安全な生活のためとして取り上げている点も好ましく感じました。それから、QRコードによりデジタル教材にアクセスできるという点で、第一に学研教育みらいを推したいと思いました。

次の候補なのですけれども、私は光文書院にしようと感じた次第です。特に1点だけ挙げると、性の悩みの丁寧な扱い、がん教育など現代的な課題に正対しているのかなと感じた次第です。

それでは、ただいまの意見につきまして、何かご意見やご質問等ございますか。よろしいですか。

それでは、保健についてはただいまのご意見をまとめますと、原案どおり学研教育みらい

を採択するということにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、続きまして英語について説明をお願いします。

○統括指導主事(田村貴代美君) 外国語科英語については、発達段階や学習指導要領の内容に即している点については、各社とも問題なく、子供の興味関心を引く工夫が各社に見られました。年間の授業時間からみて余裕をもった構成なのが3社、現在使用している「We can」の内容に沿っているものが3社であることが挙げられました。また、教師用指導書の多言語での記載について、日本語に不慣れな児童向けの資料が付いていることや、今後専科が増えたときに、専科と担任の使いやすさについて配慮が必要となってくることなどが挙げられました。ほかには、別冊付きの辞書があること、巻末や付録にカードが付いている教科書が複数あること、本の作りとして、200グラム台が1社、400グラムを超えるものが2社あり、重さの差が見られることなどが挙げられました。

これを踏まえ、臨時会での協議では、光村図書出版と東京書籍に関するご意見が多く聞かれました。光村図書出版については、「We can」に沿った内容なので教員が使いやすい、英語はコミュニケーションが大切であり、話すことの練習ができる、アニメーションなどの動画は視覚聴覚を使った学習ができるなど、デジタルコンテンツの教材が良いなどのご意見は複数ありました。そのほか、民話を取り上げられ、世界への興味がわく、などのご意見がありました。

一方、東京書籍については、興味のもてる内容がある、世界の文化に触れられる、教科書に書き込めるなどのご意見があり、とりわけ辞書については、便利、使いやすい、2年間使い続けられる、など好評価が複数ありました。

そのほかの教科書について、ご意見は次のようなものでした。学校図書については、英語の歌から入るのが発音から入るため良い、大判で見やすい、重いのが気になる、英語に親しみやすい場面の工夫が見られる、デジタルコンテンツで英語の発音が聞けるため繰り返し学習ができる、三省堂については、見開きが見やすい、ポップ・ステップ・ジャンプが分かりやすい、新興出版社啓林館については、「We can」に沿っている、教員用図書がALTの教員も使いやすい、などのご意見がありました。

説明は以上です。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。それでは、松田委員、お願いいたします。

○委員(松田 努君) 私は2社推します。東京書籍と三省堂です。まず、東京書籍ですが、Picture Dictionaryは2年間使えて便利に活用できるのではないかと思います。また、児童が興味を持ちやすい設定や資料になっていると感じたからです。三省堂は、見開きの世界を意識できる写真から始まるのが良いと感じました。また、ポップ・ステップ・ジャンプで学ぶ過程がわかりやすくなっていて、付録がとても充実しているように思えました。それと、候補に挙がっています光村図書に関する意見ですが、QRコードを大いに活用できそうだと感じました。また、その他の学習を助ける資料も豊富に感じました。こちらも活用できるのではないかと思います。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。それでは、続きまして日野委員、お願いします。

○委員(日野佳昭君) 英語の学力が諸外国に比べ低いことが以前より指摘されています。早期に英語を聞き、話すことから英語に慣れ、中学校における英語教育に連携していかなければなりません。この観点から学校図書と光村図書を推薦しました。学校図書は、英語の歌から始まるおもしろい作りになっています。発音に難点のある日本人に耳から聞かせ、言葉で表現する手法は良いと思います。聞く・読む・書くの流れが理解しやすく、また大判で見やすいと思いました。

光村図書は、生活の中から自然な英会話を覚える学習がとてもわかりやすく作られています。会話形式が多く、楽しく英語の勉強ができると感じました。英語の歌が多いのもいいと思います。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続きまして平原委員、お願いします。

○委員(平原 保君) 私は2社、光村図書と東京書籍を推薦します。1、光村図書について、デジタルコンテンツが子どもたちにとって楽しく、わかりやすい構成になっています。教科書に登場する人物が、アニメーションになって様々な場面でストーリーのある会話を表示しています。音声だけでなく動きを伴うアニメーションなので、視覚と聴覚を働かせて場面や状況にあった英語の使い方が理解できます。楽しく学びながら英語が好きになって、使いたくることが期待できます。2、小グループで協力する活動も設定しており、コミュニケーションを大切にして、主体的・対話的な学びへとつながることが期待できます。3、文科省教材の「We Can」をベースにした内容になっていて、教師も利用しやすいと考えられる。4、写真、イラストなどが豊富に使われており、児童にとってわかりやすい。5、世界の国々への関心やスポーツを始め、世界で活躍する人々の紹介があり、児童が英語を学ぶことへの意欲が喚起できると期待できます。6、英語の歌や物語、日本の民話なども取り上げられていて、文化理解にもつながると感じました。

次に、東京書籍です。1、Picture Dictionaryは、2年間活用することができる。日常生活や他教科の学習とも関連づけても活用でき、効果的であると感じます。2、デジタルコンテンツが充実している。例えば、SingとChantで構成されていて、繰り返し使用することができる。3、日常生活場面や地図など、イラストがわかりやすく、ペア学習で会話を学ぶことができるよう工夫されている。4、世界の文化に触れられるような写真が多用されていて、児童の興味関心を高める構成になっている。5、教科書に書き込みができるようになっている。6、巻末に様々な活動に役立つイラスト付き単語カードがついているのも効果的だと感じました。以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。それでは、新島委員、お願いします。

○委員(新島 香君) 私は、まず、光村図書です。これまでの英語の授業でやってきました文部科学省作成の「We Can」に沿った内容になっているというところでは、先生方が教科に移行するに当たって使いやすいのかなと思い、いいと思いました。あと、他教科との関連、国語、理科などの学びをつなげる活動があること、また、コミュニケーションを大切にして、相手に反論する言葉を取り入れていること、オリンピックにちなんだ話題があること、世界の国への関心などを誘う単元や小グループで取り組む活動が設けられているところでは、子どもたちが少しでも英語に興味を持てる教科書かなと感じました。

次に啓林館です。こちらも文部科学省作成の「We Can」をほぼ踏襲しているというところ

ころが、先生方にとってはいいのかなと思いました。あと、ALTがいる府中においては、担当者同士の打合せで、教師用指導書に英語表記があるということがとても有用であるのではないかなと思いましたので、2番目に啓林館を推させていただきます。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、最後に私の意見を申しあげます。英語は開隆堂、東京書籍、光村図書の3社が最後まで私の候補に残りまして、迷ったところです。そこで、着眼点としてデジタル教材について重視して考えました。いずれの教科書もQRコードを活用しているわけですが、特に英語においては利便性が高いと感じました。発音、チャンツ、会話など予習復習においてその機能が発揮されるでしょう。それから家庭学習で家族とともに英語を楽しむ環境が作り出せると感じました。今後、デジタル教科書に移行するとなると、従来の内容や構成に加えて、これはデジタルコンテンツの質が大きな鍵になるのかなと感じました。10年以上本市では小学校英語の研究を進めてまいりましたし、4年間の移行期間、標準時間数も全て充当してきました実績、あるいは英語専科が本市は6名配置されているという恵まれた状況下であっても、担任や英語専科の先生にとっては利便性をより重視すると考えました。こうしたことから、私は、臨時会では東京書籍を推しました。Picture Dictionaryも別冊でついていますし、こういった点で東京書籍を第一候補として挙げた次第です。

次の候補としては光村図書です。3番目が開隆堂という思いに至りました。ということでありますので、臨時会後の比較検討の結果、光村図書を採択することに異議はございません。私のほうは以上であります。

それでは、ただいまのご意見等につきまして、加えてのご意見やご質問等ございますか。よろしいですか。

それでは、若干分かれたところもございますけれども、英語につきましては、原案どおり光村図書出版を採択するということにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、道徳について、説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 道徳科については、府中市のくらやみ祭や多摩川、市に関連する有名人が掲載されている教科書が複数あり、構成の工夫、イラストや写真などの工夫、付録や読み物の抽出などは各社の特徴が見られました。生命尊重の内容に重点が置かれているものが2社ありました。ノートについては使い方に制限があるものから、自由度の高いものまであるが、ノートがあることで若い教員が扱いやすい一方で、ノートの内容に縛られてしまいやすいこと、道徳科が始まってから現場での指導材料は蓄積されており、年間指導計画ができていること、ワークシートは加工して使えるためノートに比べ使いやすいことなどが挙げられました。これを踏まえ、臨時会での協議では、各社にわたりご意見がありました。光村図書出版に関するご意見がほかより若干多く聞かれました。單元ごとの考えることがわかりやすい、いじめの問題はよく考えるよう繰り返して取り上げられている、オリンピック・パラリンピックの教材は親しみやすい、話し合いができる教材が良い、国語との違いを意識した作りになっている、デジタルコンテンツにプロの朗読が入っており、情感が込められた朗読を聞くことができるなどのご意見がありました。

そのほかの教科書についてのご意見は次のようなものでした。東京書籍については、学習

が進めやすい、1年生は絵で示されている。教育出版については、内容のバランスが良い、重要課題が組み込まれている、長年取り上げられている教材も掲載している、防災・福祉・食育など現代的な問題を扱っている、活躍するさまざまな人が取り上げられ、府中市とかかわりのある人物も掲載されている。日本文教出版については、発達段階に即している、ノートの改善が見られた、道徳の学び方がわかりやすい、国際的な視野で取り上げられており、国際理解は必要、府中市に親しみのあるくらやみ祭りが取り上げられている。光文書院については、体験を伴った教材でつかみやすい。廣済堂あかつきについては、自分のこととして捉えられる、自由・責任・生命の大切さなどの扱いが良いなどのご意見がありました。

説明は以上です。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。松田委員、お願いいたします。

○委員（松田 努君） 私からは臨時会でも申しあげましたけれども、道徳の教科書のポイントの1つになるのが、分冊ノートの扱いというのも大事なところだと思います。意見を見てもそれぞれだと思うので、私はあるのと、ないのと1つずつ挙げさせていただきました。まずは、光文書院です。こちらは体験的活動につなげやすい教材が多いと感じたので、より考え、議論する授業にアプローチしやすいのではないかと思います。もう1つは、日本文教出版です。こちらは、心のベンチという項目で教材への理解をより深めることができる、また、資料作成委員会も30年度実際に使用したが、児童の発達段階に即しており、わかりやすい教材が多いということや、道徳などが現行のものからリニューアルされ、シンプルでフリーな記述になり、授業の発問にあわせて幅広く活用できそうではないかという意見もあったとお聞きしました。なので、この2つを挙げさせていただきました。

道徳に関しましては、委員の皆様とも意見がいろいろ分かれてきましたが、光村図書が議案に挙がりました。私の光村図書に対する意見ですけれども、挿絵や写真が、教材の話がよりわかりやすくなるように効果的であると思う、学習資料をQRコードで授業の補助として活用できる、また、特に正直・誠実・素直さなどの教材は子どもたちが話し合うポイント、考えるポイントに適しているのではないかと感じました。

私からは以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、日野委員、お願いします。

○委員（日野佳昭君） 私が道徳で学んでほしいことは、日本人としての思いやり、謙虚、優しさ、命の大切さです。この観点から廣済堂あかつきと光村図書を推薦しました。廣済堂あかつきは、まず、別冊があることが特徴で、自分の考えを書くことにより自分を自覚することができる。各項目の最後に学習の道筋と広げるといふ項目があり、児童にも先生にもわかりやすいと感じました。本書の重点内容として、自由と責任、思いやり、生命の尊さを私も大切と感じているところで、個人的にも良いと思いました。

光村図書は各項目の終わりに、考えよう・話し合おう・つなげようの項目があり、各単元の考えてほしいことがわかりやすくなっています。考え、議論することは良い視点であり、よく配慮され、よく工夫されていると言えます。いじめの問題をよく考え、向き合うように1年を通して配置されており、みんなできよく議論していただけるといいと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 私は教育出版と東京書籍を推薦します。まず、教育出版についてです。1、全学年の巻頭にある、「〇年生の道徳の学習が始まるよ」には、道徳の学習の大切さや進め方など、児童の発達段階に即してわかりやすく記述されています。また、次のページには道徳ではこんな学習をするよと題して、気づく・考える・深める・つなげるが示され、児童にとって道徳の学習を進める過程がわかりやすく工夫されています。2、対話の教材がバランスよく掲載されて、児童が幅広く学ぶことができると感じました。いじめ問題、命を大切にする、情報モラルなど、重要課題であり、道徳の授業においても大切に扱っていきたい教材である。また、これまでの道徳の授業で、実践、研究を積み重ねて長年取り扱われている教材も多いと感じます。一方、現代的な課題として、防災4年「その日の朝」、福祉3年「私たちの『わ』」、食育2年「いただきます」などの教材も豊富に掲載されています。また、高学年では、先人や現代活躍する人物の努力・功績を扱い、4年「伊能忠敬」5年「渋沢栄一」6年「新渡戸稲造」、「棟方志功」様々なジャンルにおいて活躍し、社会に貢献した人物について掲載されており、児童の興味を引く内容であると感じました。3、1年生の教科書には、府中市出身でサッカー選手として活躍した「澤穂希選手」について書かれた教材、「すきなものをみつけよう」が掲載されており、児童にとって身近に感じる教科書だなと感じました。4、本の造りとしてはA B判サイズで文章や挿絵、写真などレイアウトにゆとりがある、また、ユニバーサルデザインに配慮されて読みやすい、表紙の絵が優しいタッチで、子どもたちの生き生きした表情や姿が描かれていて、明るく温かさを感じることができました。

次に、東京書籍です。1、目次に続いて、「これから1年間で学ぶこと」、次ページには「道徳の学習をするために」と題して、「気づく・考える・話し合う・ふりかえる・見つめる・生かす」が示され、児童にとって道徳の学習を進める過程がわかりやすく、これらを活用しやすいなど感じました。2、問題解決学習を意識した内容がわかりやすく書かれていました。中でも、1年生では発達段階を考慮して「きをつけて」、「みんないっしょ」など、問題を捉えやすいように、身近な生活場面が絵で示されている。2年生では「きいろいベンチ」、「おれたものさし」など、生活場面における問題が捉えやすいように配慮されている。中学年になると行動範囲や人間関係も広がりが出てくるので、3年「なかよしだから」、4年「お母さんの請求書」など、様々な生活場面における問題を扱えるように配慮されているなど感じました。3、多様な教材がバランスよく掲載されていて、児童が幅広く学ぶことができると感じました。4、6年「タマゾン川」は、多摩川の現状を考える教材であり、府中市の児童にとって身近な問題を通して、自然環境の問題を考える機会になる教材であるなど感じました。また、私の推薦には入ってなかったのですが、多くの委員からも推薦のあった光村図書については、やはり児童に親しみやすいなど感じました。また、児童が自分の生き方について考えを深める教材が多いなど感じていますので、特に異議はありません。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。それでは、新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 私は、まず、日本文教出版です。理由としては、国際理解の教材が複数あるということ、それと道徳の学び方、見開き2ページで説明してあり、初めて道徳の学習に入る1年生の児童もわかりやすく、入りやすいのかなと感じました。それから、郷土かるたの記述があることや、2年生の心のベンチでは、府中市のくらやみ祭の写真が掲載されていることなど、身近な題材が載っているところから、日本文教出版がいいなと思いま

した。

もう1社は、光村図書です。こちらはオリンピック・パラリンピックを意識して、人物が取り上げられていること、また、1年生では児童の生活実態にあわせて単元構成がされているかなと思いました。課題的な学習を行える教材がある、情報モラルやいじめに関する教材があり、話し合いがしやすい。あと、ロープチャレンジは、府中市内の小学校でも取り組んでいることなので、こちらも子どもたちが身近に感じられる内容かなと思いました。以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。最後に私の意見を申し上げます。道徳は、光村図書を推します。国語と同じ教科書会社となると教科の独自性についての懸念も考えられますけれども、そのことに十分配慮した構成、作りになっていると感じました。具体的に申し上げます。各読み物資料にQRコードを取り入れています。他の教科のようにホームページから入って、該当項目へ移るよりも合理的な気がしました。それから、このQRコードを通してプロの朗読を聞くことができ、動画、資料から読み取りが効率的で臨場感あり、感性が揺さぶられるのではないかなと思いました。このことが内容項目に沿って、児童1人1人が深く考え、意見を交わし、狙いに迫ることができるのではないかと。基本にする道徳につながるのかなと思った次第です。それから同じく動画ですね、水の渡る橋、通潤橋、そこをのぞいてみましたら、動画によって橋を流れる大量の水と周りの人の大きさとの比較によって、この橋のスケールがダイナミックに把握できることには驚きました。

続きまして、学習指導要領の総則には道徳教育は特別な教科であり、道徳を要として学校の教育活動の全体を通じて行うと記されているわけです。そのことを踏まえますと、例えば、私には夢があるという、資料の中でキング牧師の演説の動画と翻訳のテロップがありまして、これについては従来ですと、先生方が拡大コピーを黒板に貼ったり、演説のテープを用意したりするなどのことをしたわけですけれども、その負担が軽減される。小学校には先ほど申しあげましたように電子黒板が導入されますので、これは英語と他の教科とのカリキュラム等の指導が可能になるのかなと感じた次第です。

最後ですね、特に目を引いたのは、6学年、世界人権宣言から学ぼうという内容であります。ご存じのように、人権宣言は1948年12月に国連で採択されて、国際憲章になっているわけですけれども、毎年、この時期に府中市では小中学生の人権作文発表会を開催しています。内容なのですけれども、子どもたち、とりわけ小学生にとっては難しい表現であります。例えば第16条、婚姻、家庭に関する権利の第2項には、婚姻は両当事者の自由かつ完全な合意によってのみ成立すると表記されていますけれども、教科書を見ますと、第16条には2人で決める、大人になったら誰とでも好きな人と結婚し、家庭を持てますと書かれています。他の条文も同様でありました。これは正確さよりも子どもたちにとってわかりやすくという、端的にかつ大胆に編集した、この勇氣に私は敬意を表したい、そういうふうと感じた次第です。したがって光村図書を推薦したいと思います。以上であります。

それでは、ご意見、ご質問等ございますか。よろしいですか。それでは、意見が分かれなかったけれども、全体として原案どおり光村図書を採択することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続いて2の中学校用教科用図書について説明をお願い

します。

○統括指導主事（田村貴代美君） 議案書1ページ、2の中学校用教科用図書についてご説明いたします。令和2年度使用教科用図書採択要綱第4条第2号において、道徳に関しては平成30年度に採択し、令和元年度から使用しているものと同一の教科書を採択するものとしております。そのほかの種目に関しては令和3年度から新学習指導要領が施行されるため、特段の必要性が認められない場合は、平成27年度に採択し、平成28年度から使用しているものと同一のものを採択するものとしております。中学校校長会を通し確認したところ、各中学校からは現行の教科書変更の申し出はなかったことをご報告いたします。

つきましては、要綱第4条第2号に則り、中学校用教科書の採択候補として、全種目において現行の教科書をあげさせていただきます。

説明は以上でございます。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

ご意見はいかがでしょうか。新島委員、どうぞ。

○委員（新島 香君） 来年度中学校でもタブレットの導入を検討しているところでは、これらの教科書はQRコードなど対応されている教科書も幾つかはあるということでしょうか。お願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 今回小学校の教科書に見られましたような、対応というものは、現行についてはございません。ただ、ホームページに飛ぶようなものは教科書によってはありますので、そういったものの活用は簡単と考えております。

○教育長（浅沼昭夫君） よろしいですか。ほかはいかがでしょうか。ご質問、ご意見よろしいですか。

それでは、中学校用教科用図書について、別紙2のとおり採択するということにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） つきまして、3の特別支援学級用教科用図書について説明をお願いします。

○統括指導主事（田村貴代美君） 議案書1ページ、3の特別支援学級用教科用図書についてご説明いたします。令和2年度使用教科用図書採択要綱第4条第3号において、小学校学習指導要領または中学校学習指導要領に基づき、教育課程を編成する場合は、第1号及び第2号で採択された教科書を採択することを原則とし、学校教育法附則第9条の規定により、一般図書等の適切な図書を採択することができるものとするとしております。特別支援学級用教科用図書におきましては、本規定に基づき、議案書2ページ、別紙1小学校用教科用図書一覧、議案書3ページ別紙2中学校教科用図書一覧、議案書4ページ、別紙3文部科学省著作教科書一覧、及び、学校教育法附則第9条第1項の規定による教科書とする一般図書として、令和元年7月東京都教育委員会発行、「令和2年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」に掲載の図書といたします。

なお、今回は事前調査により、それ以外の一般図書についてはございませんでしたので、あわせてご報告いたします。

説明は以上でございます。ご審議のほどお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

ご意見はいかがですか。

それでは、特別支援学級用教科用図書について、「文部科学省検定済教科書」、「文部科学省著作教科書」及び「学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）」を採択することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、最後一括してお諮りいたします。第29号議案「令和2年度使用教科用図書の採択について」決定することに、改めましてご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。

それでは、これで令和元年第8回府中市教育委員会定例会を閉会といたします。



午後4時50分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

令和2年1月16日

府中市教育委員会教育長

浅沼 昭夫

府中市教育委員会委員

平原 保